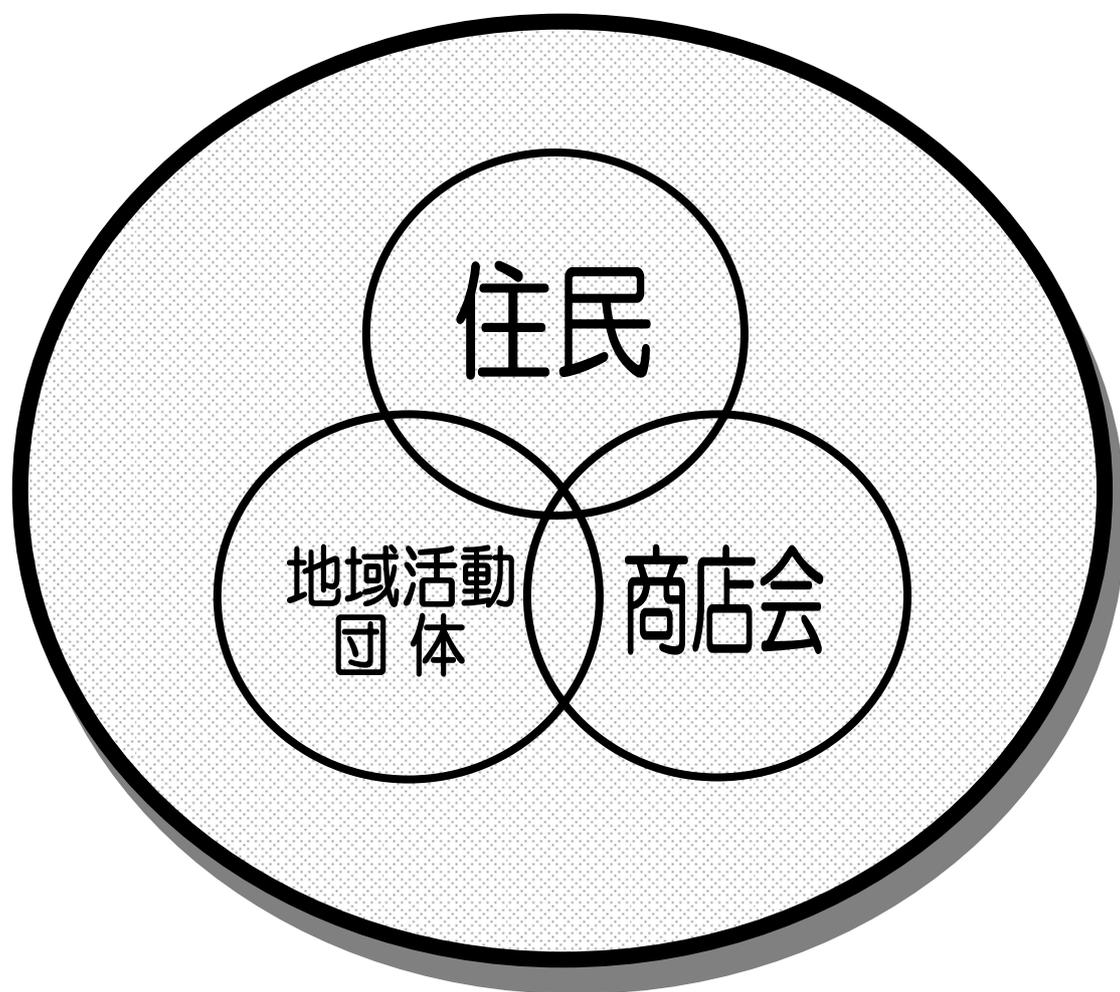


綾瀬市
コミュニティビジネス調査・研究業務報告書
(綾西地区をモデル地区として実施)



平成23年10月

綾瀬市

綾瀬市コミュニティビジネス調査・研究業務報告書

1. 調査・研究の目的及び調査方法

この報告書は、綾瀬市が産業振興マスタープラン商業編において目標とする「地域コミュニティの核となる商店街づくり」を目指し、コミュニティビジネス創出の可能性を探ることを目的として調査・研究し、その結果をまとめたものです。

調査・研究にあたり、商店街などにおける地域課題を把握するための住民アンケート、事業者意識調査、コミュニティビジネスの可能性を知るための地域活動団体意識調査を行いました。これらの調査データを踏まえて、「地域コミュニティの核となる商店街づくり」のため「商店街の空き店舗を活用する取り組み」を実現するコミュニティビジネスの方向性と、創出につながる具体的な戦略を提案しています。調査対象地区のみならず、綾瀬市全体における地域商店街活性化のために、本書を積極的に活用していきます。

2. 調査対象地域及び団体

綾西地区（綾西1丁目～綾西5丁目）、綾西バザール商店会、地域活動団体（10団体）

3. 調査・研究日程

平成23年5月から平成23年10月

平成23年10月

綾瀬市 都市経済部 商工振興課

・調査受託機関

特定非営利活動法人 NPOあつぎみらい21

・執筆メンバー並びに執筆分担

プロジェクト・リーダー	大嶋 碩郎	まえがき・第6章・第7章
プロジェクト・メンバー	高木 信	第1章
〃	入谷 和雄	第2章
〃	上地 道男	第3章
〃	相原 洋一	第4章
〃	越地 文夫	第5章・第6章

目次

第1章	綾西地区（綾西1丁目～5丁目）の特徴	
1	位置	1
2	人口、世帯	1
3	背景	1
4	特徴	1
第2章	地域住民アンケート調査結果の分析と地域ニーズ	3
1	調査内容	3
2	調査結果	3
3	コミュニティビジネス創出に結びつく地域ニーズ	21
第3章	商業者意識調査結果の分析と地域ニーズ	23
1	調査内容	23
2	調査結果	23
3	コミュニティビジネス創出に結びつく地域ニーズ	31
第4章	地域活動団体意識調査結果の分析と地域ニーズ	34
1	調査内容	34
2	調査結果	35
3	コミュニティビジネス創出に結びつく地域ニーズ	38
第5章	地域住民調査報告・意見交換会に見る地域ニーズ	40
1	地域住民調査報告・意見交換会開催内容	40
2	アンケート結果から見える傾向と意見交換会での意見について	40
3	地域ニーズについて	41
第6章	行政が行うコミュニティビジネス支援事例	43
1	綾西地区コミュニティビジネスのあり方	43
2	行政が行うコミュニティビジネス支援	44
3	コミュニティビジネスへの行政支援による影響	48
第7章	綾西地区のコミュニティビジネス創出に向けて	50
1	綾西地区のコミュニティビジネス創出をどう進めるか	50
2	コミュニティビジネス創出を期待する地域ニーズ	51
3	コミュニティビジネス創出の要件	52

添付資料1	「綾西バザール商店会のあり方全般について」自由回答の集約 ----- 57 (第2章 問15. 関係)
添付資料2	「これからの綾西地区のあり方全般について」自由回答の集約 ----- 59 (第2章 問17. 関係)
添付資料3	「コミュニティビジネス創出のためのアンケート調査」----- 61

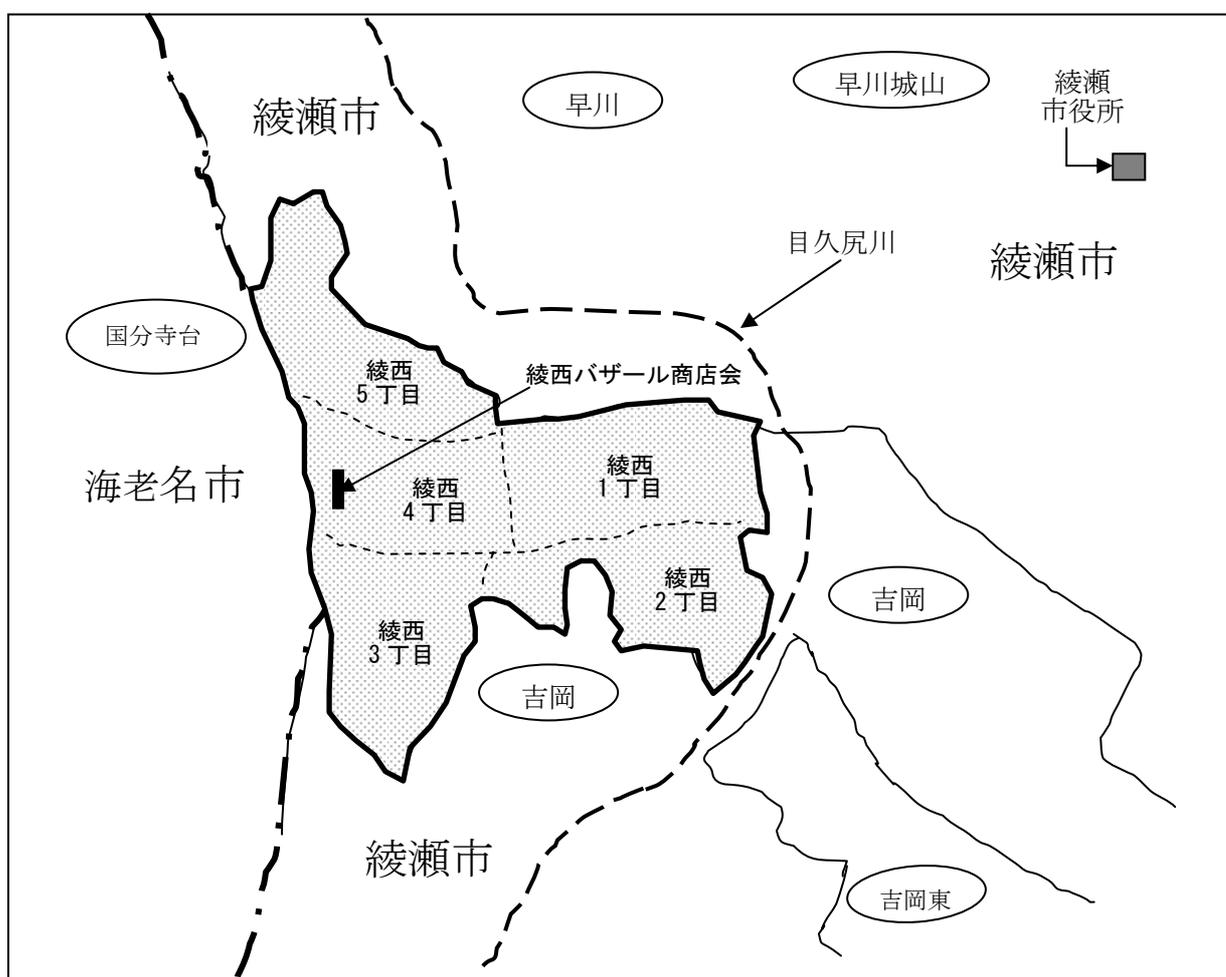
第1章 綾西地区（綾西1丁目～5丁目）の特徴

1 位置

綾西地区は、綾瀬市の南西部に位置し、西側は海老名市、南側は藤沢市に隣接しています。北部は計画的に開発された一団の良好な低層住宅地があり、地域の東部を流れる目久尻川周辺は、集落地、農地、雑木林等による里山環境が残されています。

また近年は環境への取り組みも進み、目久尻川周辺では、市の鳥でもあるカワセミが飛び交う姿も見受けられるようになりました。

図表1-1 綾西地区及び周辺概略図



2 人口、世帯

綾瀬市の人口は83,172人、うち綾西地区の人口は3,599人、1,410世帯（平成22年10月1日現在）が暮らし、地域全体の年齢構成は55歳以上の世帯が多くなっています。

3 背景

綾西地区の住宅地は、低層住宅エリアがあります。低層住宅エリアは、は昭和 40 年代～50 年代にかけて、一団地として計画的に開発整備されました。そのため住宅地の道路の道幅も比較的広く、ゆったりとした住宅地となっています。

開発当初から路線バスが海老名駅まで運行されていたので、住民も海老名駅を利用することが多く、また西側が隣接していることもあり、海老名市とは密接な関係にあります。

商業施設としては、地区の最西部に綾西バザール商店会が位置し、開設当初から昭和 50 年代までは、地区の商業施設として中心的な役割を担いました。また西隣に位置する海老名市国分寺台地区の住民からも利用され非常に活気がありました。海老名市国分寺台にも国分寺台中央商店会があり、同様に地域の商業の中心を担っていました。

その後、海老名駅周辺の開発が始まり、大型ショッピング施設、「ビナウォーク」、「マルイ」の新店で大きく様変わりし、車、バスを利用しても、海老名まで出かけていく、といった流れに変わってきました。また市役所周辺にも、同様の大型商業施設、「綾瀬タウンヒルズ」が新店したことにより、こちらにも人々が流れるようになりました。

綾西バザール商店会は、施設の老朽化と共に、大型施設に負けない、魅力ある整備・再生が期待されています。

4 特徴

昭和 40 年代～50 年代に開発されてきたこともあり、住民の高齢化が目立ってきています。ほとんどが戸建てであり、坂の多い街並みです。東側の坂の下に小学校、西側にあたる坂の上には綾西バザール商店会が位置し、路線バスが綾西地区を縦断するように走り、海老名駅へと結んでいます。

地理的状況から日常交通手段として、通勤、通学、買い物にはバス、自家用車の利用が多く、また住民の社会的意識が高いことなども特徴としてあげられます。

第2章 地域住民アンケート調査結果の分析と地域ニーズ

1 調査内容

(1) 調査の目的

綾西バザール商店会および周辺の綾西地区をモデル地区として、「商店街におけるコミュニティビジネスの創出」を支援するため。

(2) 調査方法

綾西1丁目～5丁目 1,410世帯のうち、300世帯を無作為抽出し、その対象世帯にアンケート用紙をポストイングしました。回答については、郵送により回収しました。

実施期間	平成23年6月10日(金)～7月15日(金)
対象者	綾西1丁目～5丁目の住民
配布方法	発送：ポストイング、回収：郵送
配布枚数	300通
回収状況	150通(回収率50%)

2 調査結果

(1) アンケート回答者の属性

回答者150名の属性は、以下ようになっていました。

① 性別(図表2-1 参照)

回答者の性別は、男性74人(49%)、女性76人(51%)で、ほぼ同数でした。

図表2-1 性別の回答者の状況

	男性	女性	【合計】
人数(人)	74	76	150
比率	49%	51%	100%
平均年齢(歳)	69.7	63.0	66.2

② 地区別(図表2-2 参照)

綾西1丁目～5丁目を5地区に分け、各々50世帯にポストイングを行いました。地区ごとの回答数は、図表2-2で偏りはほとんどありませんでした。

なお、(2)以降の分析では、地区ごとの差異は見られませんでした。

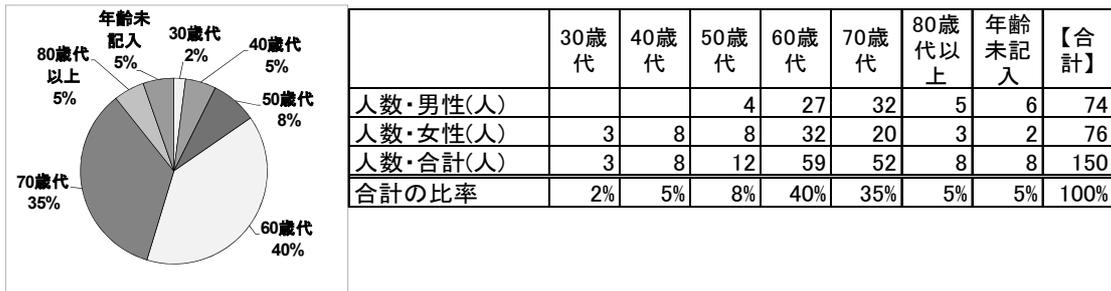
図表2-2 地区別の回答状況



③ 年代別 (図表 2-3 参照)

回答者の年代別では、60歳代と70歳代が全体の75%を占めていました。

図表 2-3 年代別の回答者の状況



④ 世帯の状況別 (図表 2-4 参照)

回答者の世帯の状況は、2人(夫婦)が約半分(49%)を占めていました。

図表 2-4 世帯の状況別の回答者の状況



⑤ 年代と世帯の状況 (図表 2-5 参照)

年代と世帯の状況のクロス集計を行うと、図表 2-5 のようになります。

図表 2-5 年代別/世帯の状況別の回答者の状況



(単位:人)	1人	2人 (夫婦)	2人 (夫婦 以外)	3人	4人	5人 以上	無回 答・そ の他	【合計】	平均世帯 人数
30歳代				2			1	3	3.3
40歳代		2		4	1	1		8	3.1
50歳代		4	1	3	2	2		12	3.1
60歳代	1	30	2	13	9	4		59	2.7
70歳代	11	28	3	7		3		52	2.1
80歳代以上	3	4		1				8	1.8
年齢未記入		6		1	1			8	2.4
【合計】	15	74	6	31	13	10	1	150	2.5

ここでは、例えば60歳代は、2人（夫婦）世帯では74人中30人（41%）を占め、3人世帯では31人中13人（42%）を占めていることを表しています。

また、3人世帯は、60歳代では59人中13人（22%）、70歳代では52人中7人（13%）を占めていることを表しています。

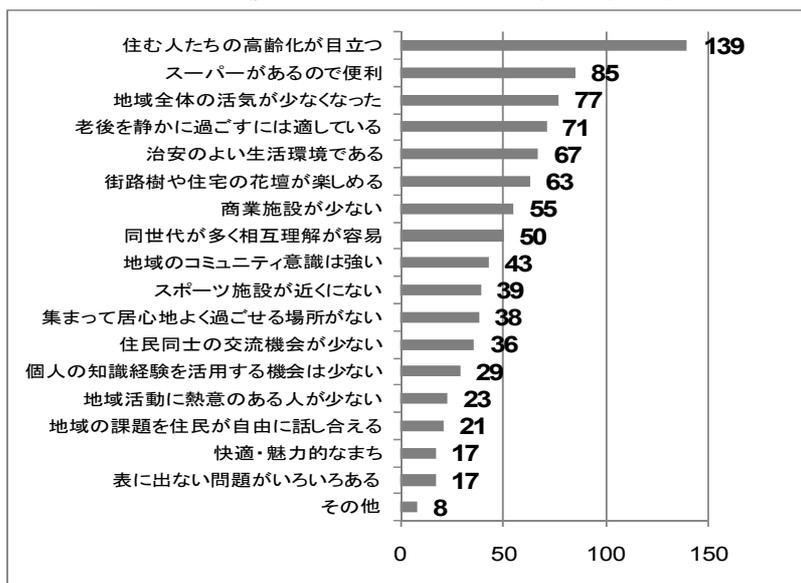
（2）綾西地区に持っている印象（問3）

問3では、綾西地区に持っている印象をたずねました。（図表2-6 参照）

問3. あなたが綾西地区に持っている印象を教えてください。

結果は、「住む人たちの高齢化が目立つ」が一番多く、150人中139人が選択していました。男女間、年代間、世帯の状況別で傾向の違いは、ほとんど見られませんでした。

図表2-6 綾西地区に持っている印象（問3）



(単位:人) (複数回答) (回答対象者 150人)

（3）綾西地区のありかたについての話し合い（問4、問5、問6）

① 話し合いをしたことがあるか（問4）（図表2-7 参照）

問4. あなたは綾西地区のありかたについて、知人等と話をしたことがありますか。

綾西地区のありかたについて、約半分の方が、「話したことがある」との回答でした。男女間、年代間、世帯の状況別で傾向の違いは、ほとんど見られませんでした。

図表2-7 綾西地区のありかたについての話し合い（問4）

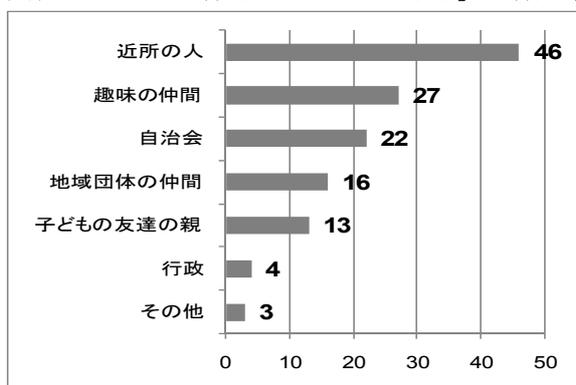
	話をしたことがある	話をしたことがない	【合計】
人数(人)	74	76	150
比率	49%	51%	100%

② 「話をしたことがある」の話し相手（問5）（図表2-8 参照）

問5. 問4で、「話をしたことがある」を選択した方におたずねします。どのような話し相手ですか。

問4で「話したことがある」と回答した方に、話し相手についてたずねました。半分以上が「近所の人」と回答し、続いて「趣味の仲間」、「自治体」が上位になりました。

図表2-8 「話をしたことがある」の話し相手（問5）



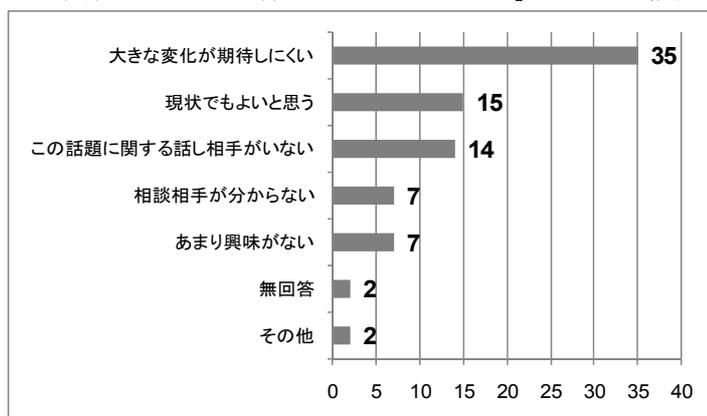
(単位：件) (複数回答) (回答対象者 74人)

③ 「話したことがない」の理由（問6）（図表2-9 参照）

問6. 問4で、「話をしたことがない」を選択した方におたずねします。その最も大きな理由は何ですか。

問4で「話したことがない」と回答した方について、その理由をたずねました。最も多かったのが「大きな変化が期待しにくい」で、「現状でもよいと思う」、「この話題に関する話し相手がいない」が続きました。

図表2-9 「話をしたことがない」の理由（問6）



(単位：件) (単一回答だが複数回答有り、集計に含む) (回答対象者 76人)

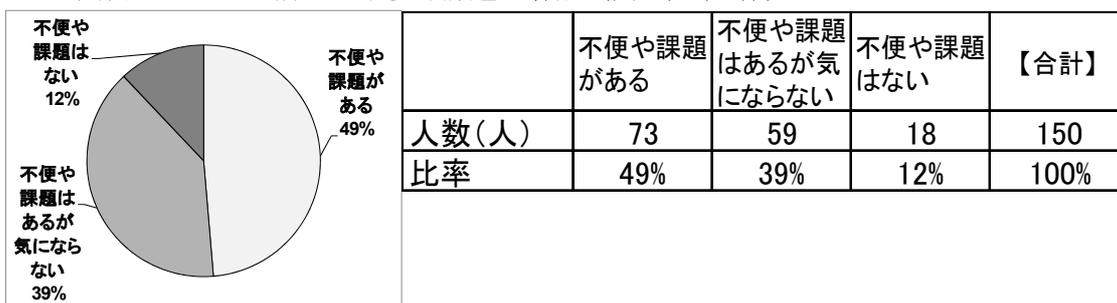
(4) 生活上の不便や課題（問7、問8、問9、問10）

① 生活上の不便や課題の有無（問7）（図表2-10 参照）

問7. 生活上の不便や課題の有無についておたずねします。

生活上の不便や課題の有無について、49%が「不便や課題がある」と回答しました。また「不便や課題はあるが気にならない」は39%、「不便や課題はない」は12%でした。属性別で「不便や課題がある」の比率は、性別では大きな相違はなく、年代別では30歳代が多く、それ以外では70歳代が少し高くなっていました。世帯の状況別では、3人世帯以上で、世帯人数が増えるに従って、比率が低くなる傾向がありました。

図表2-10 生活上の不便や課題の有無（問7）（全体）



(単位:人)		不便や課題がある	不便や課題はあるが気にならない	不便や課題はない	【合計】	「不便や課題がある」の比率(%)
性別	男性	34	31	9	74	46%
	女性	39	28	9	76	51%
年代別	30歳代	2	1		3	67%
	40歳代	3	2	3	8	38%
	50歳代	6	6		12	50%
	60歳代	24	27	8	59	41%
	70歳代	29	18	5	52	56%
	80歳代以上	4	3	1	8	50%
	年齢未記入	5	2	1	8	63%
世帯の状況別	1人	7	4	4	15	47%
	2人(夫婦)	37	29	8	74	50%
	2人(夫婦以外)	4	2		6	67%
	3人	16	12	3	31	52%
	4人	5	6	2	13	38%
	5人以上	4	5	1	10	40%
	無回答・その他		1		1	0%

② 生活上の不便や課題の内容（問8）

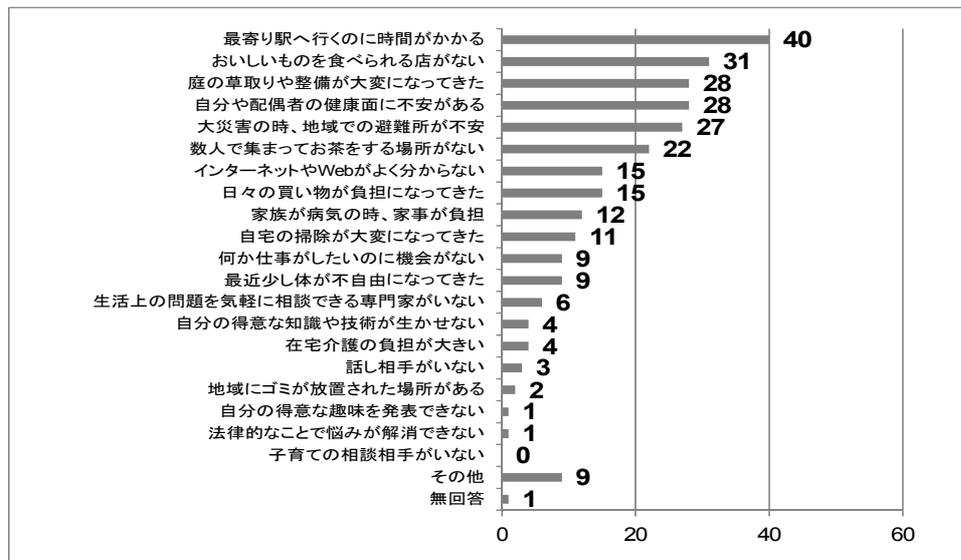
a. 複数回答（図表2-11 参照）

問8-1. 問7で、「不便や課題がある」を選択した方におたずねします。あなた自身にとって、あてはまるものすべてに○をつけてください。

問7で「不便や課題がある」と回答した方に、その内容をたずねました。

「最寄り駅へ行くのに時間がかかる」が40件で最も多くなりました。

図表2-11 生活上の不便や課題の内容（問8）（複数回答）



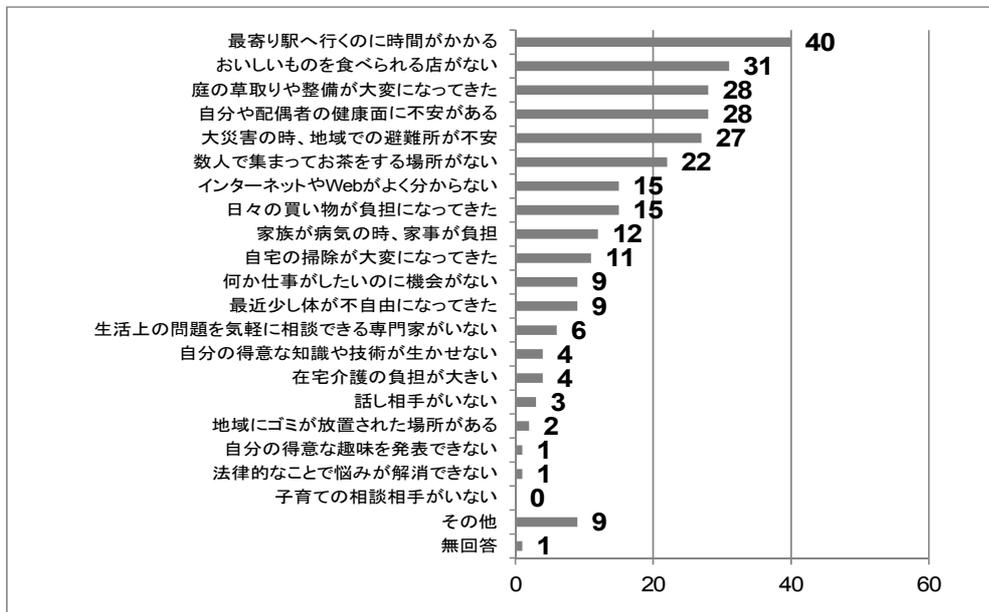
(単位：件) (複数回答) (回答対象者 73人)

b. 優先度の高いもの (図表2-12 参照)

問8-2. 問7で、「不便や課題がある」を選択した方におたずねします。その中で最も優先度の高いもの1つに◎をつけてください。

a. と同じく、問7で「不便や課題がある」と回答した方に、その内容で最も優先度の高いものをたずねました。a. と同じく「最寄り駅へ行くのに時間がかかる」、および「自分や配偶者の健康面に不安がある」が8件で最も多くなりました。

図表2-12 生活上の不便や課題の内容 (問8) (優先度の高いもの)



(単位：件) (単一回答) (回答対象者 73人)

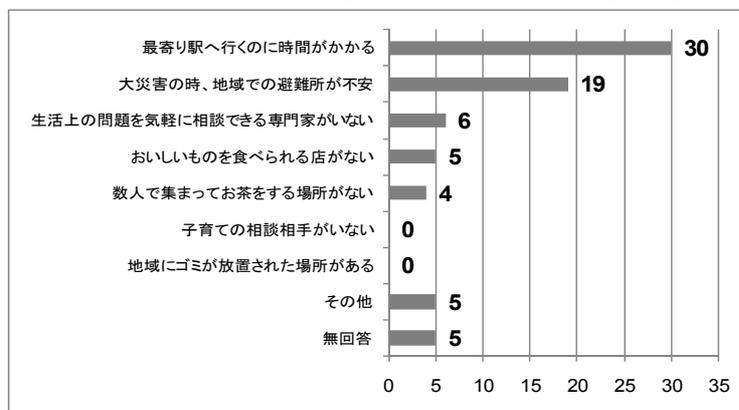
③ 生活上の不便や課題の内容 (問9) (図表2-13 参照)

問9 問7で、「不便や課題がある」を選択した方におたずねします。綾西地区全体にとって今、最も優先度が高いと考えるもの1つに○を付けてください。

問9では、問7で「不便や課題がある」と回答した方に対して、項目を絞り込んで、

最も優先度が高いものをたずねました。その結果、最も多い回答は問8と同じく「最寄り駅へ行くのに時間がかかる」でした。2位は「大災害の時、地域での避難所が不安」で一つ順位が上がりました。東日本大震災の影響もあったのではないかと推測されます。

図表 2-13 生活上の不便や課題の内容（問9）（最も優先度の高いもの）



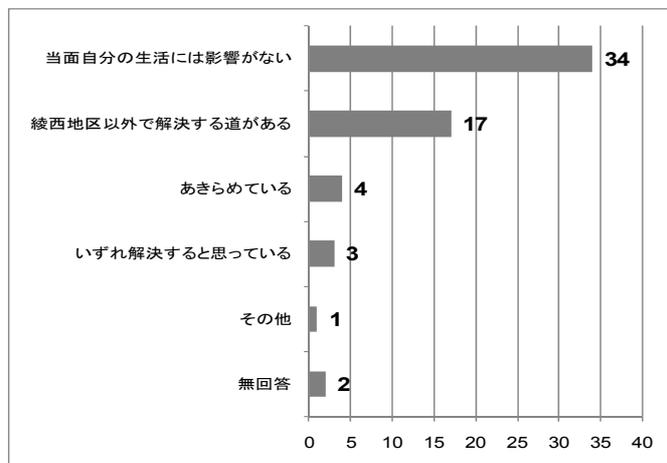
（単位：件）（単一回答だが複数回答有り、集計に含む）（回答対象者 73人）

④ 「不便や課題はあるが気にならない」の理由（問10）（図表2-14参照）

問10. 問7で、「不便や課題はあるが気にならない」を選択した方に理由をおたずねします。（あてはまるもの1つに○をつけてください）

問10では、問7で「不便や課題はあるが気にならない」と回答した方に、その理由をたずねました。「当面自分の生活には影響がない」が34件で最も多くなりました。

図表 2-14 「不便や課題はあるが気にならない」の理由（問10）



（単位：件）（単一回答だが複数回答有り、集計に含む）（回答対象者 59人）

（5）コミュニティビジネスの取り組み（問11）

問11 コミュニティビジネスの取り組みとして、もし、次のようなお店やサービスがあったら利用しますか。「利用しないと思う」を選択した方は、その理由を教えてください。

問11では、①～⑤の5種類のコミュニティビジネスについて、利用するか否か、「利用しない」を選んだ場合には、その理由をたずねました。

- ① ご自宅から徒歩20分以内で気軽に集まり、お茶ができる憩いのカフェ（問11①）

a. 利用について（図表2-15 参照）

「気軽に集まり、お茶ができる憩いのカフェ」については、「利用すると思う」27%、「利用しないと思う」23%、「内容を見てから判断する」が46%と半数近くでした。属性別で「利用すると思う」の比率が高かったのは、性別では女性、年代別では40歳代、世帯の状況別では、「4人」と「5人以上」でした。

図表2-15 「①気軽に集まり、お茶ができる憩いのカフェ」を利用しますか



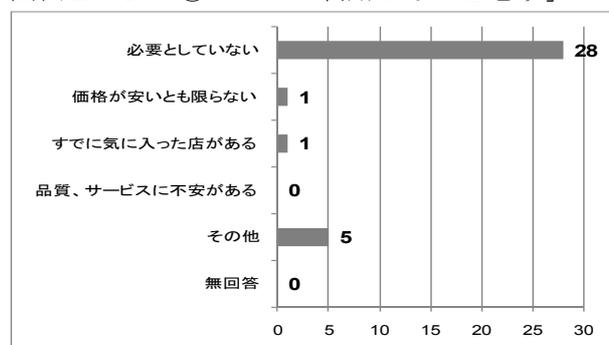
(単位:人)		利用すると思う	利用しないと思う	内容を見てから判断する	その他	無回答	【合計】	「利用すると思う」の比率(%)
性別	男性	16	19	36	1	2	74	22%
	女性	24	16	34	0	2	76	32%
年代別	30歳代	1	1	1	0	0	3	33%
	40歳代	3	4	1	0	0	8	38%
	50歳代	3	3	6	0	0	12	25%
	60歳代	16	12	30	0	1	59	27%
	70歳代	15	11	24	1	1	52	29%
	80歳代以上	0	3	4	0	1	8	0%
	年齢未記入	2	1	4	0	1	8	25%
世帯の状況別	1人	4	2	9	0	0	15	27%
	2人(夫婦)	18	16	37	0	3	74	24%
	2人(夫婦以外)	2	1	3	0	0	6	33%
	3人	6	11	13	1	0	31	19%
	4人	5	3	4	0	1	13	38%
	5人以上	5	2	3	0	0	10	50%
	無回答・その他	0	0	1	0	0	1	0%

b. 「利用しないと思う」の理由（図表2-16 参照）

「利用しないと思う」の理由としては、「必要としない」が大半でした。

「その他」のコメントとしては、「仕事が忙しくて行けない」「藤沢、鎌倉に行く」「近所に知人がいない」などがありました。

図表2-16 ①カフェ「利用しないと思う」の理由



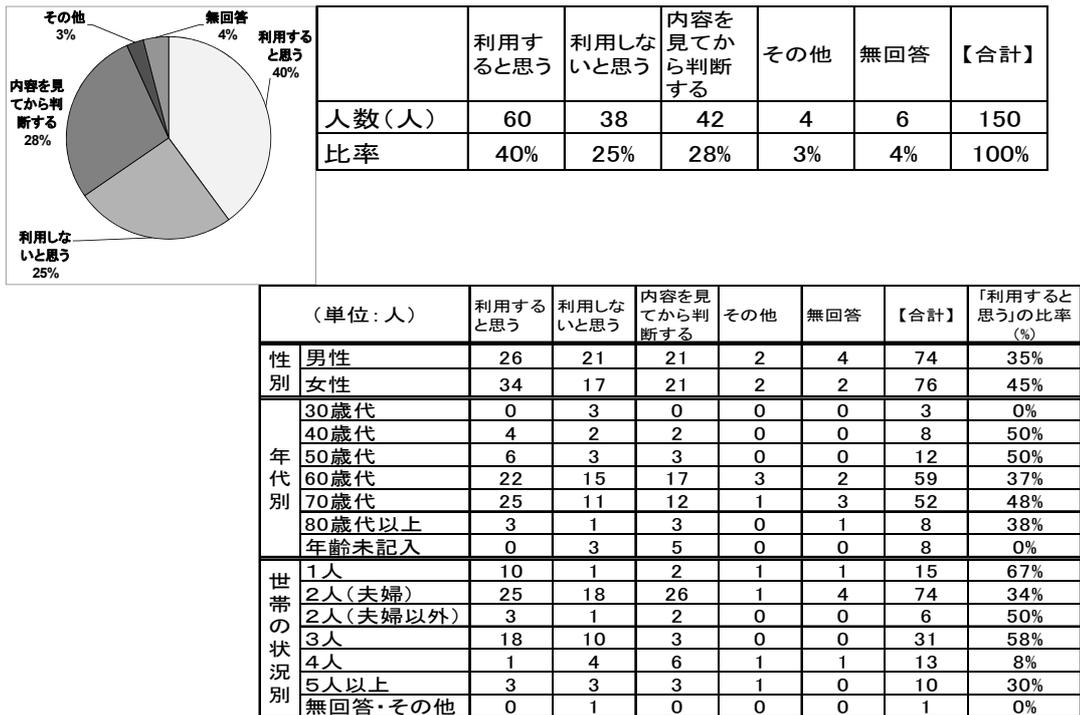
(単位:人) (単一回答) (回答対象者 35人)

② 軽作業、庭掃除、棚つりなど簡単な大工仕事を安い料金で頼めるサービス（問 11②）

a. 利用について（図表 2-17 参照）

「簡単な大工仕事を安い料金で頼めるサービス」については、「利用すると思う」40「利用しないと思う」25%、「内容を見てから判断する」28%でした。属性別の「利用すると思う」の比率は性別では女性の比率が高く、年代別では40歳代、50歳代、70歳代の比率が高く、世帯の状況別では「4人」と「5人以上」の比率が低くなっていました。

図表 2-17 「②簡単な大工仕事を安い料金で頼めるサービス」を利用しますか

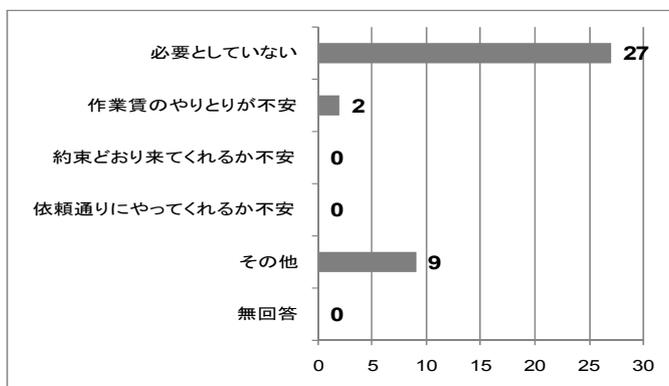


b. 「利用しないと思う」の理由（図表 2-18 参照）

「利用しないと思う」の理由としては、「必要としてない」が大半でした。

「その他」のコメントとしては、「自分でできる」「他人を入れるのが不用心」などがありました。

図表 2-18 ②大工仕事サービス「利用しないと思う」の理由



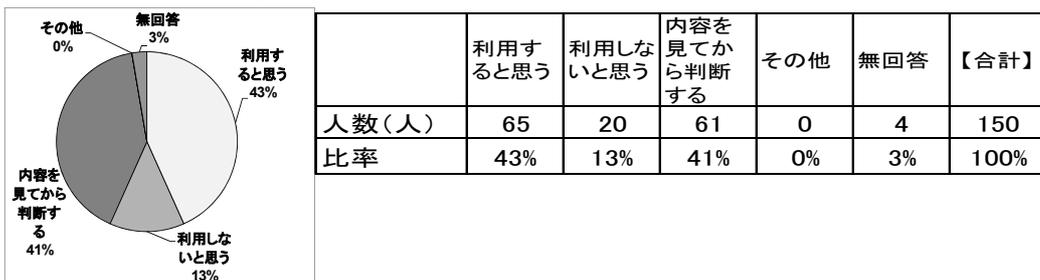
(単位:人) (単一回答) (回答対象者 38人)

③ 神奈川県内の特産品、地元生産品を使って、味良く健康にもよい食事が摂れるレストラン（問 11③）

a. 利用について（図表 2-19 参照）

「特産品、地元生産品を使ったレストラン」については、「利用すると思う」43%、「利用しないと思う」13%、「内容を見てから判断する」41%でした。属性別で「利用すると思う」の比率が高いのは、性別では男性、年代別では 60 歳代と 70 歳代、世帯の状況別では、「2 人（夫婦）」、「2 人（夫婦以外）」、「5 人以上」でした。

図表 2-19 「③特産品、地元生産品を使ったレストラン」を利用しますか

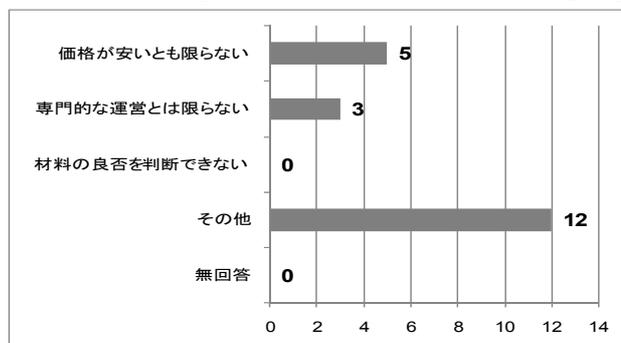


(単位: 人)		利用する と思う	利用しな いと思う	内容を 見てから 判断する	その他	無回答	【合計】	「利用する と思う」の比率 (%)
性別	男性	36	11	25	0	2	74	49%
	女性	29	9	36	0	2	76	38%
年代別	30歳代	0	1	2	0	0	3	0%
	40歳代	2	2	4	0	0	8	25%
	50歳代	4	0	8	0	0	12	33%
	60歳代	29	5	22	0	3	59	49%
	70歳代	24	11	17	0	0	52	46%
	80歳代以上	2	1	4	0	1	8	25%
	年齢未記入	4	0	4	0	0	8	50%
世帯の 状況別	1人	4	3	8	0	0	15	27%
	2人(夫婦)	36	7	28	0	3	74	49%
	2人(夫婦以外)	4	0	2	0	0	6	67%
	3人	12	6	13	0	0	31	39%
	4人	4	2	6	0	1	13	31%
	5人以上	5	2	3	0	0	10	50%
	無回答・その他	0	0	1	0	0	1	0%

b. 「利用しないと思う」の理由（図表 2-20 参照）

「利用しないと思う」の理由としては、「その他」が一番多くなっていました。「その他」のコメントとしては、「必要としていない」「食事制限がある」「仕事が忙しい」「自分でできるから」「外部に出かける」「行政の関わりはレベルが低い」「面倒くさい」などがありました。

図表 2-20 ③レストラン「利用しないと思う」の理由



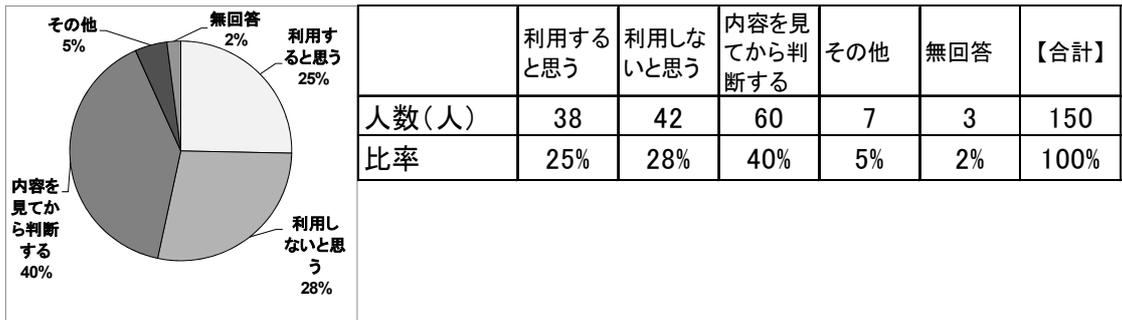
(単位: 人) (単一回答) (回答対象者 20 人)

④ 買い物に不自由な高齢者対策としての買い物支援、宅配（有料）サービス（問 11④）

a. 利用について（図表 2-21 参照）

「買い物支援、宅配（有料）サービス」については、「利用すると思う」25%、「利用しないと思う」28%でしたが、「内容を見てから判断する」40%と高くなっていました。属性別で「利用すると思う」の比率が高いのは、性別では女性、年代別では 30 歳代、70 歳代、80 歳代以上、世帯の状況別では、「1 人」と「3 人」でした。

図表 2-21 「④買い物支援、宅配（有料）サービス」を利用しますか

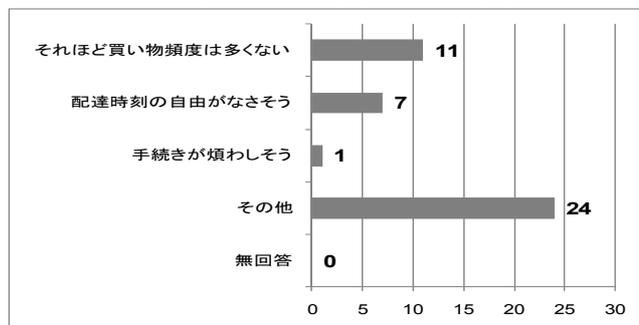


(単位：人)		利用する と思う	利用しな いと思う	内容を見 てから判 断する	その他	無回答	【合計】	「利用する と思う」の比率 (%)
性 別	男性	17	19	32	4	2	74	23%
	女性	21	23	28	3	1	76	28%
年 代 別	30歳代	1	1	1	0	0	3	33%
	40歳代	2	1	3	2	0	8	25%
	50歳代	3	2	7	0	0	12	25%
	60歳代	12	19	24	2	2	59	20%
	70歳代	16	13	21	2	0	52	31%
	80歳代以上	3	2	1	1	1	8	38%
	年齢未記入	1	4	3	0	0	8	13%
世 帯 の 状 況 別	1人	6	5	4	0	0	15	40%
	2人(夫婦)	18	18	30	6	2	74	24%
	2人(夫婦以外)	1	2	3	0	0	6	17%
	3人	10	9	12	0	0	31	32%
	4人	2	2	7	1	1	13	15%
	5人以上	1	5	4	0	0	10	10%
	無回答・その他	0	1	0	0	0	1	0%

b. 「利用しないと思う」の理由（図表 2-22 参照）

「利用しないと思う」の理由としては、「その他」が一番多くなっていました。「その他」のコメントとしては、「自分でできる」「家族の手がある」「生協等を利用している」などがありました。

図表 2-22 ④買い物支援、宅配（有料）サービス「利用しないと思う」の理由



(単位：人) (単一回答だが複数回答有り、集計に含む) (回答対象者 42 人)

c. 宅配を希望するもの

＜設問＞「利用すると思う」を選択した方は、具体的に宅配を希望するものがあればお書きください。(例) 米、酒 など

自由回答でしたが、回答の内容は、米、酒、飲み物、根菜類など、重い物、かさばる物を挙げた回答が大半でした。(回答対象者 38 人、無回答 3 人)

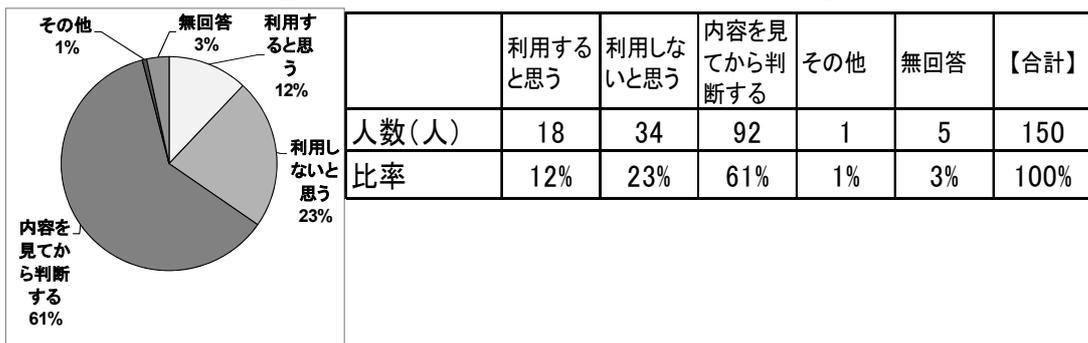
⑤ 趣味、特技の成果を持ち寄って委託販売するボックスショップ (棚貸し)

a. 利用について (図表 2-23 参照)

「委託販売するボックスショップ (棚貸し)」については、「利用すると思う」12%、「利用しないと思う」23%に比べ、「内容を見てから判断する」が61%と高くなりました。属性別で「利用すると思う」の比率は、性別では男女同じ、年代別では30歳代、40歳代が高く、世帯の状況別では、「3人」世帯が高くなっていました。

「内容を見てから判断する」が多かった理由の一つとして、「ボックスショップ」がどのようなものか把握しにくかった、ということが推測されます。

図表 2-23 「⑤委託販売するボックスショップ (棚貸し)」を利用しますか



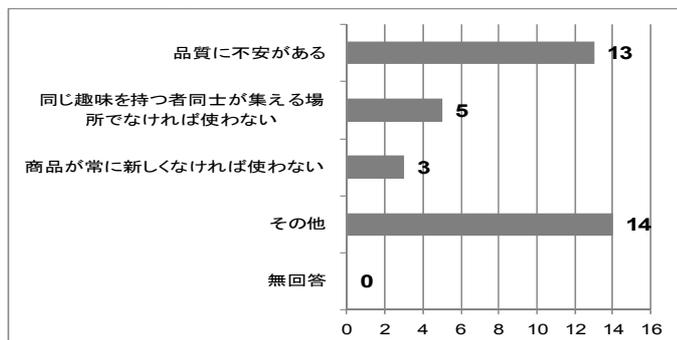
(単位: 人)		利用する と思う	利用し ないと思 う	内容を見 てから判 断する	その他	無回答	【合計】	「利用する と思う」の比率 (%)
性 別	男性	9	14	46	1	4	74	12%
	女性	9	20	46	0	1	76	12%
年 代 別	30歳代	1	2	0	0	0	3	33%
	40歳代	2	3	3	0	0	8	25%
	50歳代	0	3	9	0	0	12	0%
	60歳代	8	13	35	1	2	59	14%
	70歳代	5	11	34	0	2	52	10%
	80歳代以上	1	1	5	0	1	8	13%
	年齢未記入	1	1	6	0	0	8	13%
世 帯 の 状 況 別	1人	2	3	9	0	1	15	13%
	2人(夫婦)	7	17	48	0	2	74	9%
	2人(夫婦以外)	0	1	5	0	0	6	0%
	3人	7	8	15	0	1	31	23%
	4人	0	4	8	0	1	13	0%
	5人以上	1	1	7	1	0	10	10%
	無回答・その他	1	0	0	0	0	1	100%

b. 「利用しないと思う」の理由 (表 2-24 参照)

「利用しないと思う」の理由としては、「品質に不安がある」が13人でした。回答としては「その他」が14人で一番多くなっていました。

「その他」のコメントとしては、「必要としない」「興味がない」「よくわからない」などがありました。

図表 2-24 ⑤委託販売するボックスショップ「利用しないと思う」の理由

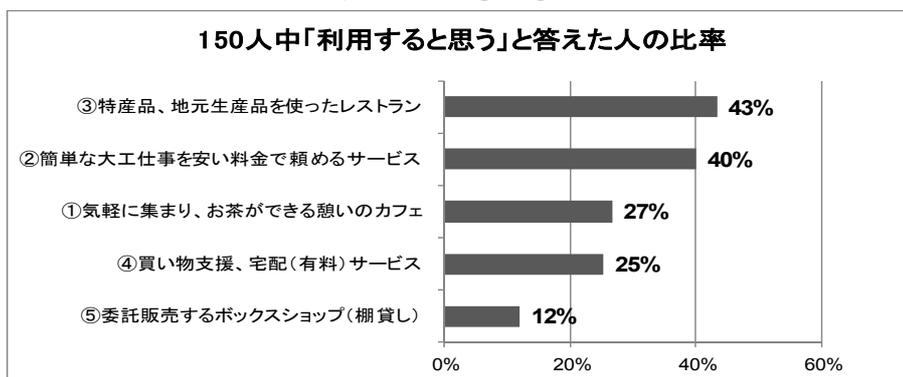


(単位：人) (単一回答だが複数回答有り、集計を含む) (回答対象者 34人)

⑥ コミュニティビジネス①～⑤の利用希望のまとめ (図表 2-25 参照)

問 11①～⑤でたずねた各コミュニティビジネスについて、利用希望状況をまとめたのが図表 2-25 です。利用希望が多かったのは「③特産品、地元生産品を使ったレストラン」(「利用すると思う」が 43%)。一方で、「⑤委託販売するボックスショップ(棚貸し)」は「利用すると思う」が 12%で、最も低くなっていました。⑤については、「内容を見てから判断する」が 61%と高いのが特徴的です。

図表 2-25 コミュニティビジネス①～⑤の利用希望



(合計に対する比率)	利用すると思う	利用しないと思う	内容を見てから判断する	その他	無回答	【合計】
①気軽に集まり、お茶ができる憩いのカフェ	27%	23%	47%	1%	3%	100%
②簡単な大工仕事を安い料金を頼めるサービス	40%	25%	28%	3%	4%	100%
③特産品、地元生産品を使ったレストラン	43%	13%	41%	0%	3%	100%
④買い物支援、宅配(有料)サービス	25%	28%	40%	5%	2%	100%
⑤委託販売するボックスショップ(棚貸し)	12%	23%	61%	1%	3%	100%

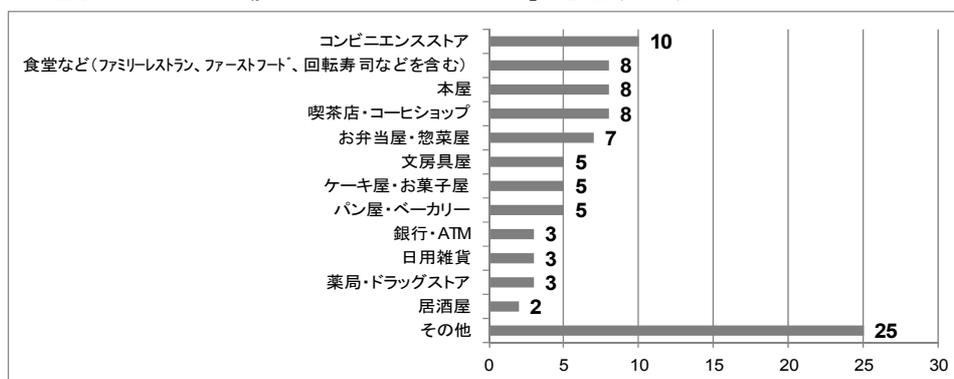
⑦ 「綾西地区にあればいい」と思うお店やサービス (図表 2-26 参照)

問 11⑥ 上記①から⑤以外で、コミュニティビジネスにとらわれず、「綾西地区にあればいい」と思うお店やサービスがあればご自由にお書きください。

問 11⑥では、自由回答で「綾西地区にあればいい」と思うお店やサービスをたずねました。自由回答の中から、複数あったものをピックアップしたものが、図表 2-26 です。

一番多いのはコンビニエンスストアで 10 件、2 位は、食堂など（ファミリーレストラン、ファーストフード、回転寿司などを含む）でした。回答が 1 件だったものは「郵便局」、「介護関係」、「医療機関」、「手芸教室」、「100 円ショップ」、「運動施設」、「園芸店」、「電気屋」、「温泉施設」などで、「その他」にまとめました。

図表 2-26 「綾西地区にあればいい」と思うお店やサービス



(単位：件) (回答 54 人、無回答 96 人)

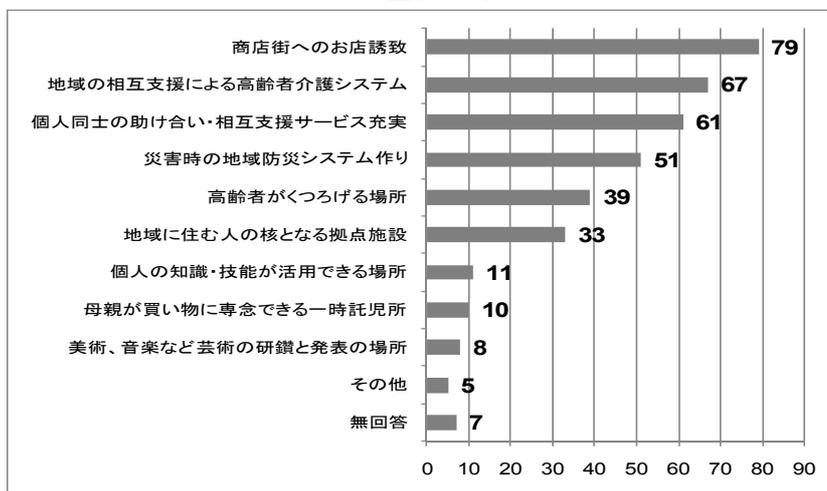
(6) 綾西地区で重要なもの (問 12)

① 綾西地区で重要なもの (複数回答、3 つまで) (図表 2-27 参照)

問 12-1. これから長い期間にわたって綾西地区で生きがいを持ち、充実した生活を送るために、何が重要とお考えになりますか。あてはまるものを最大 3 つまで○をつけてください。

問 12 では、綾西地区で重要なものについてたずねました (複数回答)。最も多かった回答は「商店街へのお店誘致」で 79 件、続いて、「地域の相互支援による高齢者介護システム」、「個人同士の助け合い・相互支援サービス充実」が上位になりました。

図表 2-27 綾西地区で重要なもの (問 12) (複数回答)



(単位：件) (複数回答) (回答対象者 150 人)

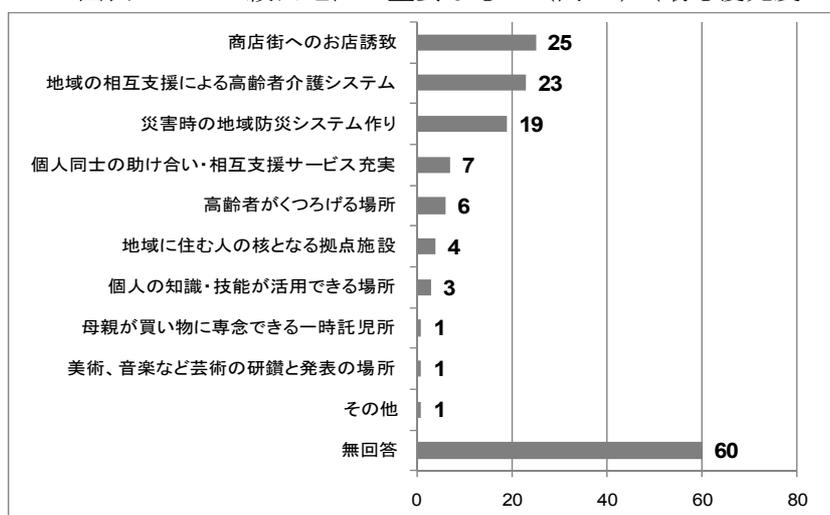
② 綾西地区で重要なもの (最も優先度の高いもの) (図表 2-28 参照)

問 12-2. これから長い期間にわたって綾西地区で生きがいを持ち、充実した生活を送るために、何が重要とお考えになりますか。その中で最も優先度の高いもの 1 つに◎を付けてください。

同じく問 12 では、綾西地区で重要なものについて、最も優先度の高いものをたずねました。1 位と 2 位は、前項の複数回答と同じで、「商店街へのお店誘致」が 25 件で 1 位、「地域の相互支援による高齢者介護システム」が 23 件で 2 位でした。3 位は、「災害時の

地域防災システム作り」(複数回答では4位)でした。

図表2-28 綾西地区で重要なもの(問12)(最も優先度の高いもの)



(単位: 件) (単一回答) (回答対象者 150人)

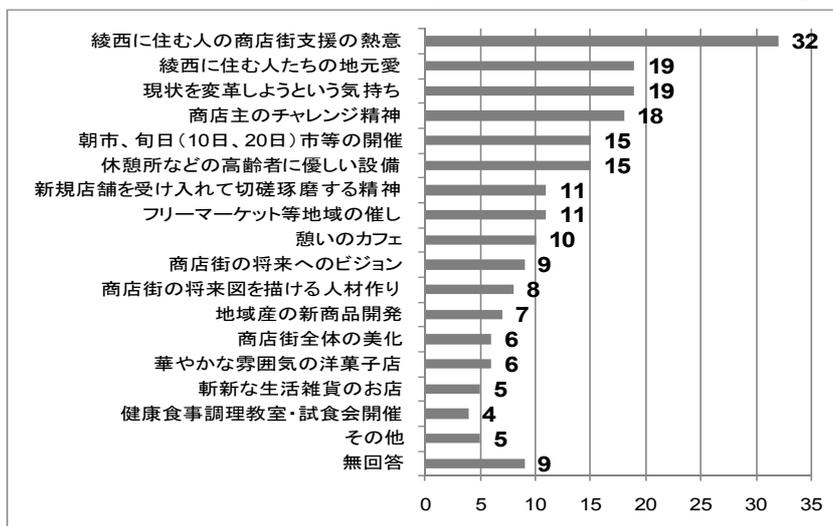
(7) 綾西バザール商店会のにぎわい増進のために(問13)

① 最も不足しているもの(図表2-29参照)

問13-1. 綾西バザール商店会のにぎわい増進のために、今最も不足していると思われるものに○を1つ付けてください。

問13では、綾西バザール商店会のにぎわい増進のために、今最も不足していると思われるものをたずねました。一番多かった回答は「綾西に住む人の商店街支援の熱意」(32件)でした。

図表2-29 綾西バザール商店会のにぎわい増進のために(問13)(最も不足しているもの)



(単位: 件) (単一回答だが複数回答有り、集計に含む) (回答対象者 150人)

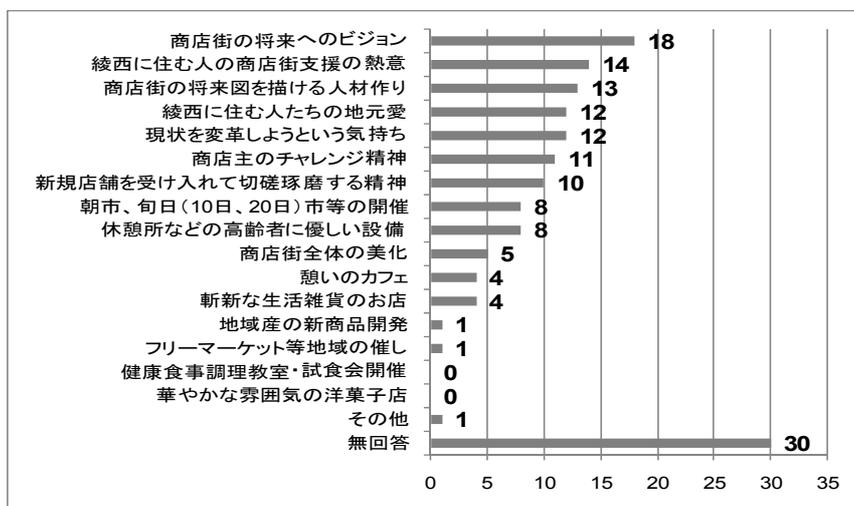
② 長期的に取り組んでいくもの(図表2-30参照)

問13-2. 綾西バザール商店会のにぎわい増進のために、今後長期的にじっくり取り組んでいくべきと考えるものに◎を1つ付けてください。

同じく問13では、綾西バザール商店会のにぎわい増進のために、今後長期的にじっくり取り組んでいくべきと考えるものをたずねました。一番多かった回答は「商店街の将

来へのビジョン」で18件でした。

図表2-30 綾西バザール商店会のにぎわい増進のために(問13)(長期的に取り組んでいくもの)



(単位：件) (単一回答だが複数回答有り、集計に含む) (回答対象者 150人)

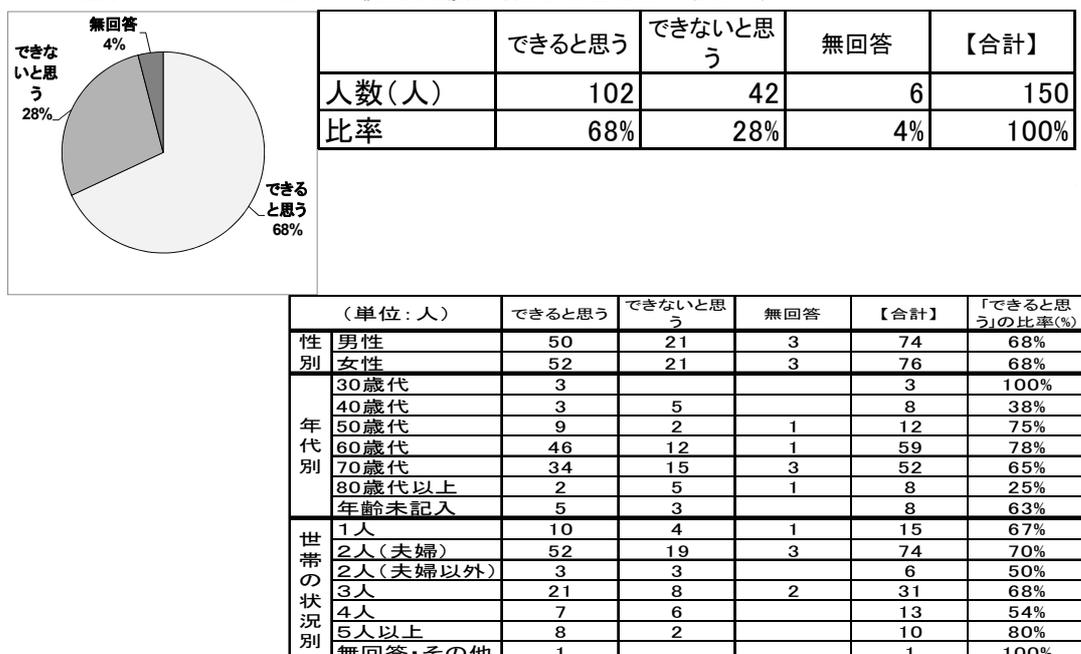
(8) にぎわい復活の支援への協力(問14)

① にぎわい復活支援に協力できるか(図表2-31参照)

問14. あなたは綾西バザール商店会のにぎわい復活の支援について協力できますか。

問14では、綾西バザール商店会のにぎわい復活の支援について協力できるかをたずねました。全体では、「できると思う」が68%で、高い比率でした。属性別で「できると思う」の比率は、性別では男女同じ、年代別では60歳代は78%と高い比率でしたが、70歳代、80歳代以上となるにつれて低くなっていました。世帯の状況別では、「1人」、「2人(夫婦)」、「3人」、「5人以上」の世帯が高くなっていました。

図表2-31 にぎわい復活支援に協力できるか(問14)

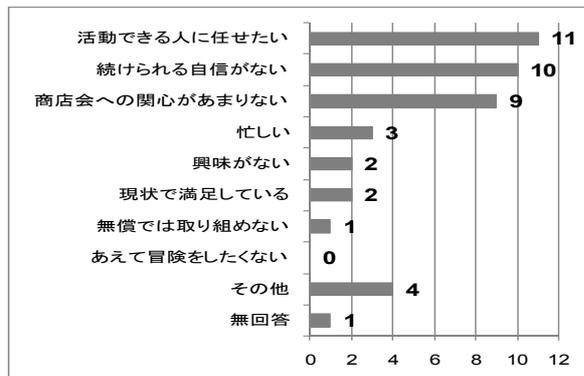


② 「できないと思う」の理由(図表2-32参照)

＜設問＞問 14 で「できないと思う」を選択した方は、できないと思われる最も大きな理由はどのようなものですか。

前項で（にぎわい復活の支援について協力が）「できないと思う」と回答された方に、その理由をたずねました。最も多いのは「活動できる人に任せたい」（11 件）でした。また、「その他」のコメントは、「高齢のため」「行政と関わりたくない」などでした。

図表 2-32 問 14 で「できないと思う」の理由（問 14-2）



（単位：人）（単一回答だが複数回答有り、集計に含む）（回答対象者 42 人）

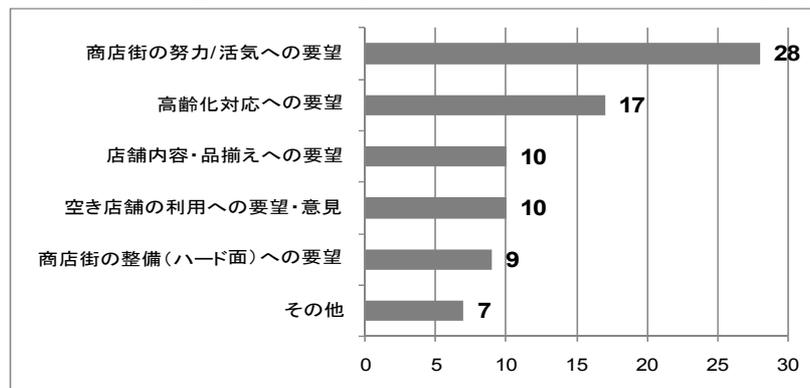
（9）綾西バザール商店会のあり方（問 15）（図表 2-33 参照）

問 15. 綾西バザール商店会のあり方全般についてご自由にお書き下さい。

問 15 では、綾西バザール商店会のあり方全般について自由回答でたずねました。回答対象者 150 人のうち、回答者 79 人、無回答 71 人でした。

全回答を、分類した結果が、図表 2-33 です。一番多かったのは「商店街の努力/活気への要望」（28 件）でした。全回答の集約は、末尾の添付資料 1 を参照してください。

図表 2-33 綾西バザール商店会のあり方（問 15）回答の分類



（単位：件）（有効回答 79 件を分類、複数分類有り）

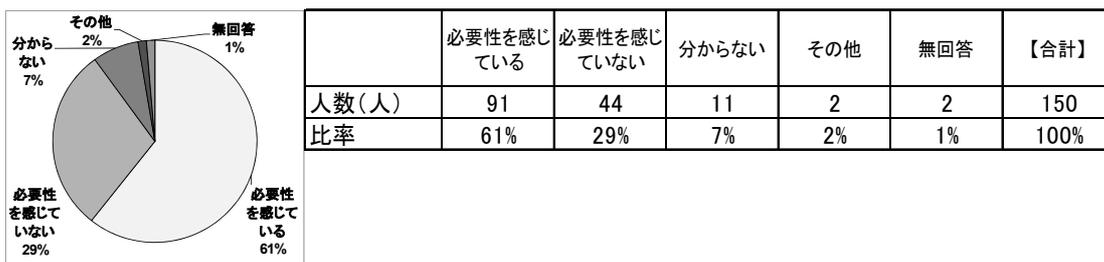
（10）仲間作り、生きがい作り（問 16）

① 仲間作り、生きがい作りの必要性（図表 2-34 参照）

問 16-1 あなたは今、仲間作り、生きがい作りの必要性を感じていますか。

問 16-1 では、仲間作り、生きがい作りの必要性を感じているかをたずねました。

図表 2-34 仲間作り、生きがい作りの必要性（問 16-1）



(単位：人)		必要性を感じている	必要性を感じていない	分からない	その他	無回答	【合計】	「必要性を感じている」の比率(%)
性別	男性	49	18	6	1		74	66%
	女性	42	26	5	1	2	76	55%
年代別	30歳代	1	2				3	33%
	40歳代	5		2		1	8	63%
	50歳代	8	2	2			12	67%
	60歳代	36	18	4		1	59	61%
	70歳代	32	17	2	1		52	62%
	80歳代以上	4	3		1		8	50%
	年齢未記入	5	2	1			8	63%
世帯の状況別	1人	7	7		1		15	47%
	2人(夫婦)	50	19	5			74	68%
	2人(夫婦以外)	5	1				6	83%
	3人	17	10	2	1	1	31	55%
	4人	7	3	2		1	13	54%
	5人以上	5	3	2			10	50%
	無回答・その他		1				1	0%

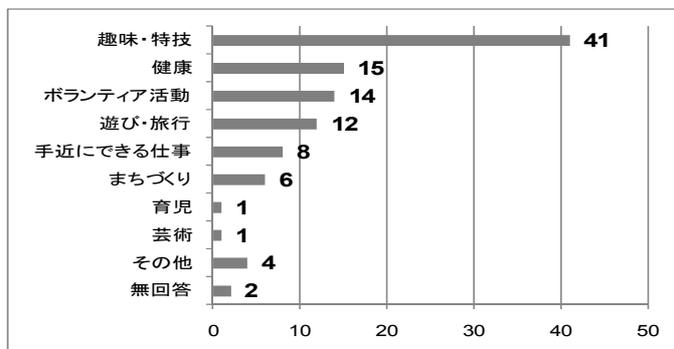
全体では、「必要性を感じている」が61%で、「必要性を感じていない」(29%)に比べて、高い比率でした。属性別で「必要性を感じている」の比率は、性別では男性が高く、年代別では、50歳代は67%で高い比率でしたが、60歳代は61%、70歳代は62%、80歳代以上は50%となっていました。世帯の状況別では、「2人(夫婦)」、「2人(夫婦以外)」の世帯が高くなっていました。

② どのような分野での仲間作りが考えられますか。(図表2-35 参照)

問16-2 「必要性を感じている」を選択した方、あなたにはどのような分野での仲間作りが考えられますか。

前項で(仲間作り、生きがい作りの)「必要性を感じている」と回答された方に、どのような分野での仲間作りが考えられるかをたずねました。結果は、「趣味・特技」が41件で突出していました。

図表2-35 どのような分野での仲間作りが考えられますか(問16-2)



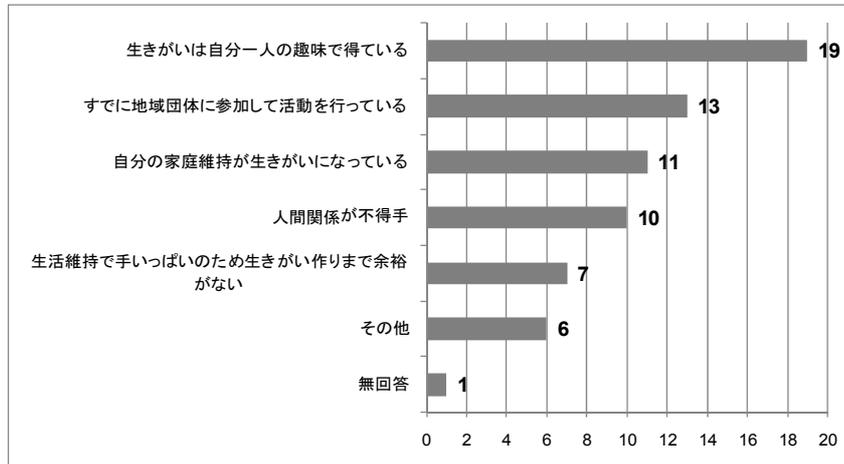
(単位：人) (単一回答だが複数回答有り、集計に含む) (回答対象者 91人)

③ 「必要性を感じていない」理由(図表2-36 参照)

問 16-3 「必要性を感じていない」を選択した方はその理由を教えてください。

前々項で（仲間作り、生きがい作りの）「必要性を感じていない」と回答された方に、その理由をたずねました。最も多かった回答は「生きがいは自分一人の趣味で得ている」で 19 件でした。

図表 2-36 「必要性を感じていない」理由（問 16-3）



（単位：人）（複数回答、回答対象者 44 人）

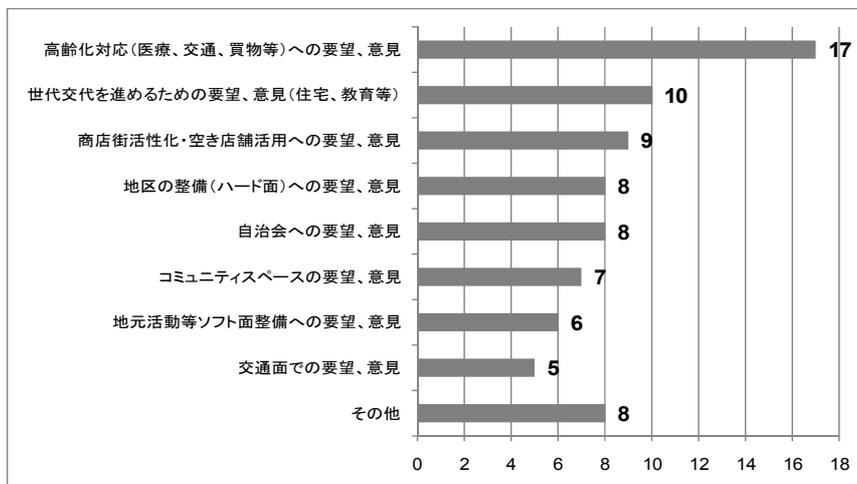
(11) 綾西地区のあり方全般（問 17）（図表 2-37 参照）

問 17. これからの綾西地区のあり方全般について、ご希望があればご自由にお書きください。

問 17 では、綾西地区のあり方全般について自由回答でたずねました。回答対象者 150 人のうち、回答者 67 人、無回答 83 人でした。

全回答を分類した結果が、図表 2-37 です。最も多かった回答は「高齢化対応（医療、交通、買物など）への要望、意見」（17 件）でした。全回答の集約は、末尾の添付資料 2 を参照してください。

図表 2-37 綾西地区のあり方（問 17）回答の分類



（単位：件）（有効回答 67 件を分類、複数分類有り）

3 コミュニティビジネス創出に結びつく地域ニーズ

コミュニティビジネス創出に結びつく地域ニーズとして、「2 調査結果」を総括すると、以下の点が挙げられます。

(1) 綾西地区について

- ① 高齢化が進み、活気が無くなってきている ⇒綾西バザール商店会のにぎわいや世代交代で、活気を取り戻したい。
- ② 治安等の生活環境はいい ⇒この環境は維持してほしい。
- ③ 図書館、医療機関、金融機関等の施設については不足していると感じている人が多い。
- ④ 最寄りの駅が遠いなど、交通面での不便を感じている人が多い。

(2) 高齢化への対応について

高齢化の進展にともなって、以下の点について、要望を持っている人が多い。

- ① 地域の相互監視による高齢者介護システム。
- ② 大災害時の避難体制や地域防災システム。
- ③ 医療機関や介護施設の充実。
- ④ 個人同士の助け合い・相互支援サービスの充実。
- ⑤ 現在および将来について、買物は綾西バザールを頼りにしている人が多い。
- ⑥ 庭の手入れ、家庭内の重作業、買物時の重いものの宅配などの生活支援の充実。
- ⑦ 趣味を通じた仲間作り、生きがい作り。
- ⑧ 世代交代のための施策（住宅の整備・誘致・補助、教育の整備など）。

(3) 綾西バザール商店会について

買物については綾西バザール商店会を頼りにしている人が多いですが、以下のような不満や要望も多くなっています。

- ① 活気がなく、必要不可欠な買物に行く以外、利用する楽しみがない。
- ② 店舗の不足や品揃えがよくないため、買いたい物が足りない。
- ③ 店主の熱意やチャレンジ精神が不足している。
- ④ 将来的な展望がないので、不安がある。
- ⑤ コンビニエンスストア、飲食店がほしい。
- ⑥ 以前あった文房具屋、本屋などに復活してほしい。
- ⑦ 喫茶店などのお休み処があればよい。
- ⑧ 綾西バザール商店会活性化のためには、68%の人が協力すると回答している。

(4) コミュニティビジネスについて

コミュニティビジネスについては、十分に理解していない方もいると思われませんが、アンケート結果からは、以下のようになっています。

- ① 「特産品、地元生産品を使ったレストラン」、「簡単な大工仕事を安い料金で頼めるサービス」は、40%以上の方が、あれば利用すると回答しています。
- ② 「気軽に集まり、お茶ができる憩いのカフェ」、「買い物支援、宅配（有料）サービス」は、20～30%の方が、あれば利用すると回答しています。
これらは、高齢化対応への要望や、綾西バザール商店会に対する要望とも一致しています。

第3章 商業者意識調査結果の分析と地域ニーズ

1 調査内容

(1) 調査方法

綾西バザール商店会の所属 20 店舗に対して聞き取り調査

(2) 調査期間

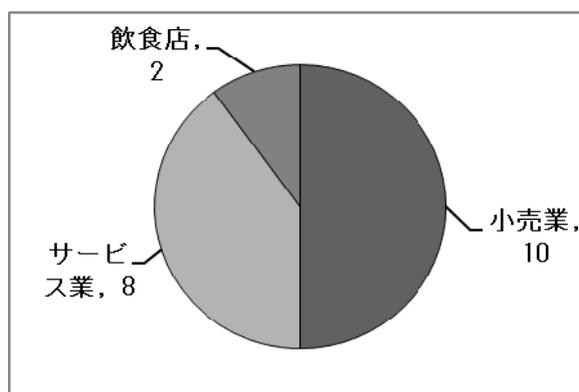
平成 23 年 6 月 13 日（月）～7 月 2 日（土）

2 調査結果

(1) 業種構成

調査を実施した 20 店舗の業種構成は、小売業 10 店（精肉店 1 店、青果店 2 店、鮮魚店 1 店、酒販店 1 店、寝具店 1 店、調剤薬局 1 店、アートフラワー 1 店、やきとり店 1 店、スーパーマーケット 1 店）、サービス業 8 店（損保代理店 1 店、理容店 1 店、美容室 1 店、宣伝公衆販売店 1 店、不動産業 1 店、保育所 1 店、整骨院 1 店、経営コンサルタント 1 店）、飲食店 2 店（インド料理店、スナック店）となっています。

図表 3-1 業種構成（単位：店）



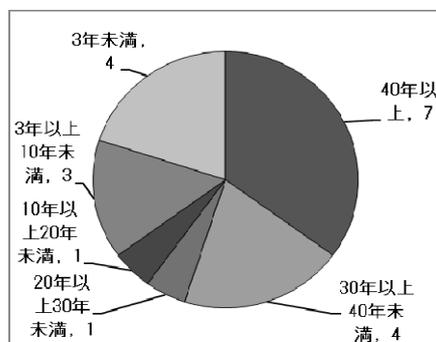
(2) 各店の創業の時期

創業の時期が40年以上経過の店7店、30年以上40年未満の店4店、20年以上30年未満の店1店、10年以上20年未満1店、3年以上10年未満3店、3年未満4店となります。

商店会発足間もなく創業したとみられる40年以上の店が調査店舗数の35%を占め、30年以上経過した店も入れると55%を占めています。一方、10年未満の店も35%を占めており、店舗の入れ替わりが行われていないわけではありません。

業種で見ると、40年以上経過した7店はすべて小売店、30年以上40年未満はすべてサービス業、また10年未満7店は、サービス業3店、飲食店3店、小売業1店となっています。

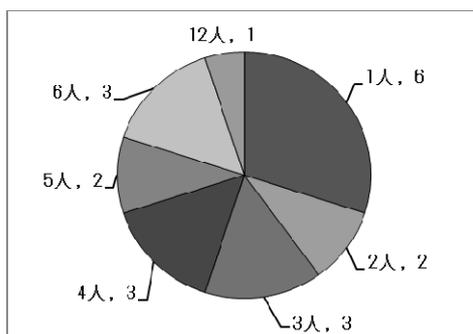
図表3-2 各店の創業時期 (単位: 店)



(3) 従業員数

1人が6店、2人が2店、3人が3店、4人が3店、5人が2店、6人が3店、12人が1店です。スーパーマーケットを除く19店が従業員6人以下であり、うち11店が家族従業員のみにて、いわゆる家族経営の店が過半数を占めています。

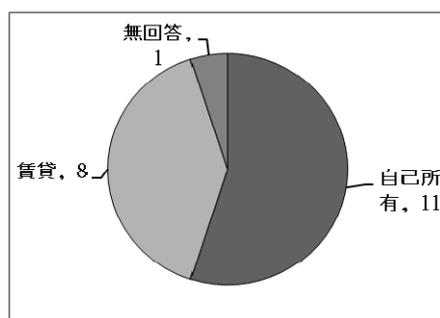
図表3-3 従業員数 (単位: 店)



(4) 店舗所有形態、事業主の居住場所

自己所有が 11 店、賃貸が 8 店、無回答 1 店となっています。自己所有のうち、事業主が居住している店は 7 店、別自宅は 4 店でした。賃貸のうち、事業主が居住している店は 1 店、自宅は 7 店となっています。店舗数の 55% が自己所有で、そのうちの 60% 強が事業主が居住しています。また、賃貸のうち、1 階を貸し 2 階に大家として居住するケースも 1 件あります。

図表 3-4 店舗所有形態 (単位: 店)

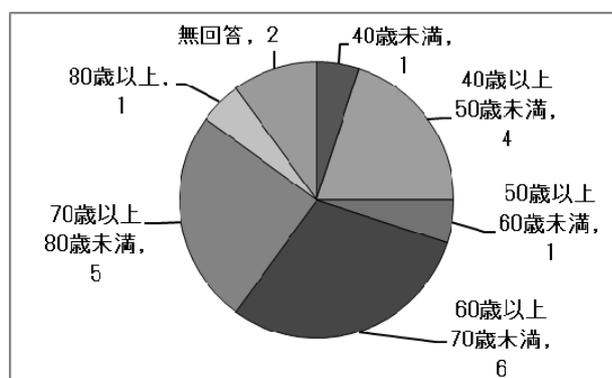


(5) 事業主の年齢

40 歳未満 1 人、40 歳以上 50 歳未満 4 人、50 歳以上 60 歳未満 1 人、60 歳以上 70 歳未満 6 人、70 歳以上 80 歳未満 5 人、80 歳以上 1 人、無回答 2 人となっています。

60 歳以上は 12 人となっており、年齢判明者 18 人の 67% を占めています。特に創業時期 30 年以上経過の店の事業主は、11 人中 9 人が 62 歳以上と高齢化が進んでいます。

図表 3-5 事業主の年齢 (単位: 店)



(6) 来店客

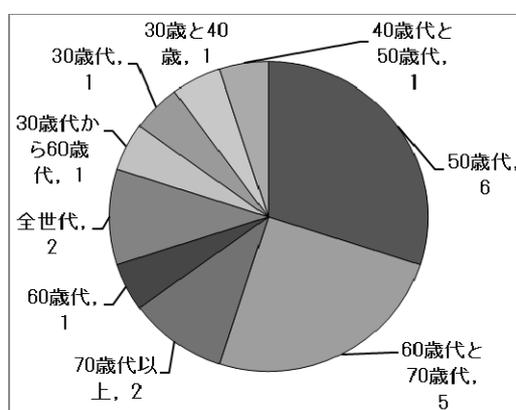
① 平均年齢層

50歳代とする店が6店と最も多くなりました。60歳代と70歳代が5店、70歳代以上2店、60歳代とする1店舗を加えると60歳代以上とする店は8店となっており、高齢化をうかがわれます。その一方で、全世代とする店2店と30歳代～60歳代とする店1店という幅広い客層の店も3店あります。幅広い客層の店の業種内訳は、小売業、サービス業、飲食店、各1店となっています。

その他、30歳代とする店1店、30歳代と40歳代とする店1店、40歳代と50歳代とする店が各1店となっています。

まとめると、客層が60歳代以上とする店は全店の40%、50歳代以上まで含めると70%を占めています。また、30歳代、40歳代、全世代とする店も30%あります。

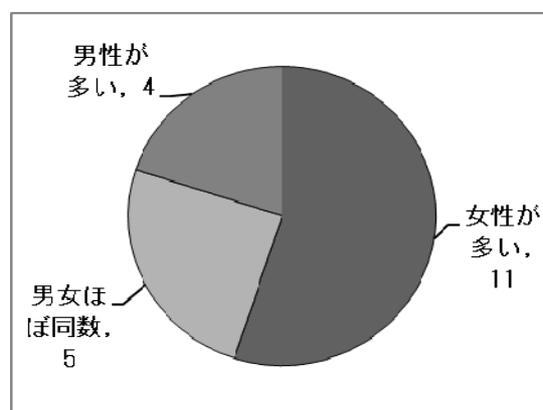
図表3-6 来店客平均年齢（単位：店）



② 性別

女性が多いとした店11店、男女ほぼ同数5店、男性が多い4店となっています。男性が多いとした店の業種は、理容店、不動産業者、経営コンサルタント、飲食店です。

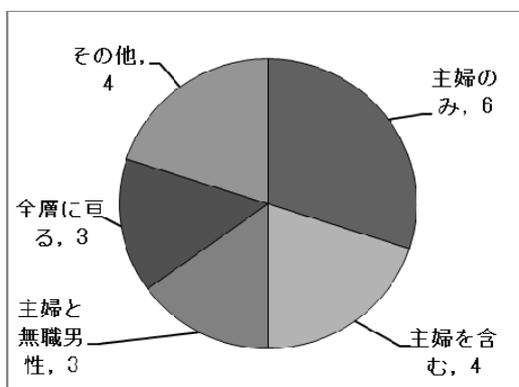
図表3-7 来店客性別（単位：店）



③ 職業

主婦とする店 6 店、主婦を含む店 4 店と主婦が最も多くなりました。主婦と無職男とする店が 3 店、全層とする店は 3 店、その他、サラリーマン、無職男性、自営業者、経営者も回答としてありました。

図表 3-8 来店客職業 (単位: 店)



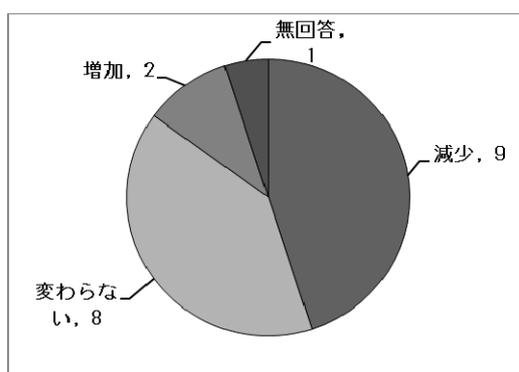
④ 来店客のその他特徴

回答のあった 16 店のうち、高齢化とするもの 4 店、高齢化をうかがわせる「定年者が多い」、「バリアフリー化」、「お酒飲む量が減少」が 3 店となっています。「来店客の固定化」とするもの 2 店、「年齢、職業も多岐にわたる」が 2 店、その他 5 店は、「ともかく客が少ない」、「小分けでの買いが多い」などの結果となりました。

(7) 来店客数増減 (全体)

「減少」が 9 店、「変わらない」が 8 店、「増加」が 2 店、無回答 1 店となっています。

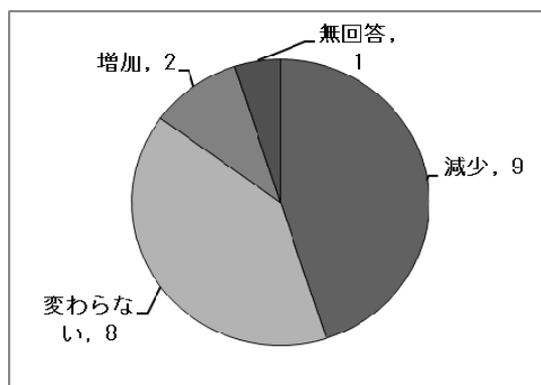
図表 3-9 来店客数増減 (全体) (単位: 店)



(8) 経営概況 (2 期売上比較)

「減少」が 9 店、「変わらない」が 8 店、「増加」が 2 店、無回答 1 店となっています。「減少」とする店の業種内訳は、小売業 7 店、サービス業 2 店となっています。「変わらない」とする店の業種内訳は、サービス業 6 店、小売業 2 店。「増加」とする店の業種は小売業、飲食店各 1 店となっています。

図表 3-10 経営概況（2期売上比較）（単位：店）



（9）商店会全体として最も改善したい点

意見は、「設備・施設」、「商店会の運営」、「空き店舗」、「その他」に分類されます。

① 設備・施設の充実

この項目が最も多く、「中央スペースの公園化」、「バリアフリー化」、「金融機関のATM設置」、「看板設置」、「駐車場拡大」、「集会的な商業施設建設」、「個店の改装」、「アーケードの改装」など、設備・施設を充実したいとの声が多数見られました。

② 商店会の運営

「商店会全体の施設に投資しても採算合わず無理」、「定例会への出席率の悪さ」、「今の商店会の予算では何をやろうとしても無理」、「各店主高齢化で活動が鈍化」、「やる気がない、個性を出す方法が分からない」、「自店の経営が苦しく（運営のための）活動時間をとれない」など、店主高齢化や各店の業績低下による活動低下、商店会の戦略性がないこと、採算や予算・資金不足を指摘する声もあります。

③ 空き店舗

「空き店舗を埋めたい」、「空き店舗が改善点」と、にぎわいを復活するためにも空き店舗をなくしたいという意見は多く見られました。

④ その他

「店主が高齢化し、後継者のいないところも多く、新陳代謝が必要」、「にぎわいを復活したい」、「イベントはあった方が良い」などの意見がありました。

（10）綾西バザール商店会の「空き店舗」に対する考え

現在空き店舗は5店あります。意見は「入るべき業種・店」、「発生原因」、「空き店舗の解消」、「その他」に分類されます。

① 入るべき業種・店

「ドラッグストア」、「履物店」、「雑貨店」、「衣料品店」、「飲食店」、「物販店は難しい」、「介護・保育・福祉・塾などの施設」、「綾西小学校の生徒対象の施設」、「歯科医」、「不動産」、「高齢者向けサービスの店・施設」など、現在の商店会の隙間を埋める、または、地域ニーズにあった業種・業態・商品・サービスの店を空き店舗に誘致したいとの要望がうかがえます。

② 発生原因

「個人所有が原因。所有者が売りたいくない、貸したいくない。売りたいくても第3者が入らないと進まない」、「店主の高齢化と後継者難、経営下降」、「客が少なく出店してもやめてゆく」の意見がありました。

③ 空き店舗の解消

「にぎわいのため空き店舗をなくすことが大事」、「にぎわいのためイベントやって欲しい」との意見でした。

④ その他

「現行施設での活性化は無理で、再開発で3階建てにし、1・2階を貸す」などの意見がありました。

(11) 個店として、現在最も緊急に改善したい点

意見は、「来店客の増加」、「設備更新の資金不足」、「設備の修理」、「その他」に分類されます。

① 来店客の増加

「とにかくお客がこない」、「お客の要望で雑貨品を扱ったが利益が薄く手間がかかる（のでやめた）」、「集客力あるのはスーパーマーケットだけ」、「フラワーアレンジメント教室や癒されるスペース作りたい」など、地域ニーズを取り込んだ業種・業態・商品・サービスを揃えたいとの意識がうかがえます。その他「それよりも商店会全体の外観の改善」との意見が見られました。

② 設備更新の資金不足

「店頭」、「ショーケース」、「照明」、「冷蔵庫」を更新したいが資金がないとの回答がありました。

③ 設備の修理

「下水が臭う」、「雨漏りがする等修理したい」、「戸口の幅・スペースが車椅子のお客さんにはややせまいと感じる」、「設備が古くどこを直していいかわからない」など、大小様々な修理の必要性に関する指摘があります。

④ その他

「顧客との結びつきを重視する」との意見がありました。

(12) 最近数年、商店会から見た綾西地域（商圈）の住民の変化

意見は、「高齢化とそれに付随する事象」、「高齢者以外の若い層の来店」、「その他」に分類されます。

① 高齢化とそれに付随する事象

「高齢者が増えた」、「高齢者向けサービスが増えた」、「高齢者が徒歩でも買い物しやすいようにする必要がある」、「徒歩の買い物客が大半」、「空き家が多い」、「亡くなる人が多い」、「来店客の財布のヒモが固い」、「飲酒量が減った」、「さびしい人や精神的に不健康な人が多い」、「年配者から夕方から飲める立ち飲み屋をやって欲しいなどの要望がある」など、高齢化や高齢化がうかがえる意見が多いが、行動の変化を指摘する声もあります。

② 高齢者以外の若い層の来店

「スーパーマーケットには若い人も来店する」、「他の店（スーパーマーケット以外）では買わない」など、スーパーマーケットや一部の店・施設では、高齢者以外の若い層の来店もあることが指摘されています。

③ その他

「地域のコミュニティ意識が薄い」、「地域住民は商店会が必要と言いながら買わない」など、コミュニティ意識の薄さや自治会など地域他団体との連携不足がうかがえる意見もあります。

(13) 商業者から見た綾西地域（商圈）の住民が感じている特有の課題（今困っていること）やニーズ

意見は、「商店会の業種・業態・品揃え・サービス」、「欲しい施設」、「高齢化とニーズ対応」、「その他」に分類されます。

① 商店会の業種・業態・品揃え・サービス

下記のように、地域ニーズに対して十分対応できてない様子がうかがえます。

- a. 品揃えでこの商店会では間に合わない、他のスーパーマーケットへ行く。
- b. 購入したい商品がない。
- c. スーパーマーケットがなければ来ない。
- d. パン屋・喫茶店・休むところがあるといい。
- e. 30代、40代は店には困っていない（から商店会へ来る必要がない）。
- f. 自宅近くでそろばん塾・ピアノ塾などあった方がよい。
- g. 空き店舗への対応など。

② 欲しい施設

- a. 銀行出張所が閉店しているので、ATMがほしい。
- b. 医療関係が十分でない。

③ 高齢化とニーズ対応

- a. 2kmほど歩いて買い物をしている人は将来困るのではないか。
- b. 徒歩・バスでの買い物中心になっている。
- c. 個店単位で午前・午後に配達を行っている場合もある。
- d. 1世帯当たりの注文量が少なくなっている。
- e. おいしい米を食べたいとのニーズがある。
- f. 自治会館でサークル活動が盛んだが、遠い、入りにくいなどの問題もある。

④ その他

- a. 地域が海老名にもまたがっており地域全体で考えるべきである。
- b. 夜間が暗くて安全性が懸念される。
- c. 個人店に客が少なく入りにくい。

(14) 住民が持つ課題、ニーズに対して商店会が行える役割・活動・考え方など

意見は「商店会の役割や課題」、「空き店舗」、「商店会の運営」に分類されます。

① 商店会の役割や課題

- a. ビナウオークや綾瀬タウンヒルズに移動せずに多少のことはできる形態目指した

- い。
- b. 商店会全体での宅配（配達）を考えたがコストその他難しい問題があり実現できない。一方、可能な店は配達を行っている。
- c. 高齢化に対応する手段を考えてゆく。
- d. 高齢者サービスを充実させ高齢者が外に出て集まる場所づくりが課題となる。
- e. 商店会でもスペースづくりを検討したが、初期投資がネックで断念している。
- f. 商店会全体で行う様々なPR活動が必要。
- g. イベントの継続実施が必要。

上記に見られるように、商店会のまとまりやリーダーシップの不十分さを推測させる指摘もあります。コストや資金不足の問題と相まって、現実として、なかなか対策が進まない様子がうかがえます。

② 空き店舗

「空き店舗対策で誘致して入居してもらう（自転車修理業など）」、「空き店舗個人所有なので紹介できるがそれ以上は難しい」など、空き店舗を誘致したいが、店舗の個人所有がネックとの指摘もあります。

③ 商店会の運営

「商店会は熱心でなくソフトも無いので住民ニーズに対応できない」、「商店会の高齢化とパワーダウン、コスト面で実際難しいと思ってしまう」と考える傾向があります。商店会（役員）の高齢化と意欲低下、戦略性や運営ノウハウの不足、資金の不足などで地域のニーズに対応できないことがうかがえます。

(15) 綾西バザール商店会のにぎわい復活に向けた行政の支援について（希望など）

意見は「施設・設備充実支援」、「再開発施設建設支援」、「店舗誘致支援」、「PR・イベント支援」、「その他」に分類されます。

① 施設・設備充実支援

「商店会活性化のための資金支援」、「バリアフリー化」、「駐車場の拡張」、「行政出先機設置」、「公園の整備」、「商店会施設の整備」

② 再開発施設建設支援

「再開発支援として集会的商業施設建設」、「老人ホームの建設」、「何か大々的に行って欲しい（例えば、スパ施設）」

③ 店舗誘致支援

地域ニーズにあった業種・業態の空き店舗への誘致の要望があります。

「コンビニ店の誘致」、「育児・塾・教室などのにぎわいが商店会のにぎわいに貢献する（創業を補助金支援）」、「コミュニティサロンへの支援」、「市で市場調査を行いニーズに合った空き店舗の募集」、「お休み処」など

④ PR・イベント支援

「イベント開催の助成金支援の続行やPR支援」、「パンフレットなどでの店の宣伝支援」、「農産物の市のようなイベント開催支援」

⑤ その他

「住民が何を求めているか、アンケート結果を教えて欲しい」、「海老名市地区の動向も知りたい」、「商店街活性化の成功事例教えて欲しい」、「自治会のイベントなどでの有効活用」、「活性化は市など第三者が入らないと進まない」

3 コミュニティビジネス創出に結びつく地域ニーズ

(1) コミュニティビジネスに関する地域のニーズと課題

① 地域住民の高齢化進展に伴う地域のニーズと課題

- a. 商店会の発足以来、立地条件の変化や競合条件の変化で、その役割は低下してきました。ここにきて地域住民の高齢化の進展により、再びその役割が高まっていますが、十分な対応が出来ていません。

特に、商店会の現行の業種・業態・個店の商品力や品揃え・サービスでは、不十分となっています。スーパーマーケットが一部そのニーズを満たしていますが、その他の個店で個性的な品揃えや品質・鮮度、サービスが十分ではありません。商店会全体としての業種・業態揃えやサービスも十分に対応出来ていません。

個店の意欲低下や業績不振による資金力低下が、商店会全体の意欲低下や結束不足、資金不足を引き起こしていると考えられます。

今回の聞き取り調査では、望まれる業種・業態例として、ドラッグストア、コンビニ店、雑貨店、履物店、衣料品店、飲食店、パン屋、喫茶店、癒されるスペース、お休み処、コミュニティサロン、教室などが挙がっています。

- b. 空き店舗に地域が望む業種・業態を誘致し、商品・サービスへのニーズを満たすことも十分出来ていません。この場合、入居に際しては、店舗個人所有問題の解決と創業支援が必須となってきます。そして、空き店舗の解消とにぎわい・活気の向上が大きな課題となっています。
- c. 高齢者向けサービスも十分ではありません。一部の店では配達サービスを実施していますが、商店会全体としての対応は十分ではありません。高齢者の少量単位での購入や高品質なものを購入したいとのニーズ対応も今後の課題となっています。
また、高齢者の孤独化が進むにつれて、近くに話し合える場所が少ない、銀行や役所まで遠い、徒歩で行ける活気ある場所が少ない、サークル活動をしたいが遠い、夜間が暗くて安全性に懸念、などの課題があります。望ましい施設の例として、ATM、医療機関、行政出先機関などが挙がっています。
- d. 進む高齢化への対応が求められる中、コミュニティビジネス誘致の基礎条件として、バリアフリー化や、トイレ、休憩所、公園の整備など、商店会の設備・施設の充実も課題となっています。そのために、第三者が入ったの推進体制強化、商店会の運営強化、資金不足対策や財源確保も課題となっています。

② 地域高齢者以外の世代のニーズと課題

- a. 高齢者ニーズへの対応という大きな課題と同時に、高齢者以外の世代の人たちへのニーズ対応という課題も存在しています。

特に商店会に近い綾西小学校の学童を持つ共働きの父母のニーズや親の介護で

十分保育時間が取れない父母のニーズに十分対応出来ていません。

父母の出資によって運営されている学童保育は、まさにコミュニティビジネスと言えますが、設備の老朽化やスペースが狭いなどの課題を抱えています。同時に学童を迎えに来る父母の買い物ニーズを、スーパーマーケット以外で十分満たしているとは言えません。また、学童向けの塾や教室のニーズも十分満たしていません。

学童が商店会中央の公園で遊ぶ様子は、マイナスの評価もあるようですが、活気とにぎわいを与えている側面もあります。高齢者以外が集まる場・コミュニティ・店づくりが与える、にぎわいの要素も見逃すべきではありません。

- b. 業種・業態によっては、高齢者に限らず広い客層の店も商店会に存在しています。商店会として、業種・業態、商品、サービス、施設・設備、雰囲気が高齢者以外の世代のニーズも十分満たされていません。

③ 地域のニーズや課題解決のための基盤づくり

- a. 地域のニーズや課題を解決する基盤をつくるためには、商店会や自治会と地域住民との交流機会の場の設置、コミュニティ意識の薄さの解決、自治会など地域の他団体との連携強化、海老名等近隣地区との連携強化、商店会の運営強化などの課題があります。
- b. コミュニティビジネスの実現推進には、第三者として、行政、支援組織、専門家などの支援も必要と考えられます。

(2) 調査結果から見えるコミュニティビジネス創出の方向性

今回の聞き取り調査の結果から、小商圈でも成立する、ローコストで運営するビジネス形態、すなわち「コミュニティビジネス」が求められていると考えます。その方向性として、以下のような例が考えられます。

- ① 生鮮品や物販の出張サービス
- ② 近距離（例えば1 km以内）の人や物、ペット動物の移動を支援するサービス
- ③ 商店会の商品の宅配（配達）サービス
- ④ 気軽に話し合える、コミュニティサロンの運営
- ⑤ ローコストで運営する、高齢者とのコミュニケーションを大切にする介護サービス
- ⑥ ローコストで運営する飲食店、喫茶店、パン屋、雑貨店、衣料品店、コンビニ店
- ⑦ 人間形成・生涯学習、料理教室等教育、趣味等サークル活動の場を提供する施設運営
- ⑧ 年金・医療・健康相談出張サービス
- ⑨ 入出金等の銀行出張サービス、行政機関出張サービス
- ⑩ 学童のための、保育施設拡大、塾（学習塾、そろばん塾、書道等）、教室の運営
- ⑪ にぎわいを演出するイベント企画と実行サービス

第4章 地域活動団体意識調査結果の分析と地域ニーズ

1 調査内容

(1) 調査方法

綾瀬市の地域活動団体のうち、綾西地区に近い10団体に対し、コミュニティビジネスの可能性を探るため、団体の代表者、もしくは、その代理から代表者の意見として聞き取り調査を行いました。

(2) 調査期間

平成23年6月7日(火)～7月12日(火)

(3) 調査対象地域活動団体

- ① 綾瀬市手をつなぐ育成会
- ② Hana note (花の音)
- ③ 綾西ふれあいクラブ
- ④ AIFA綾瀬友好協会
- ⑤ 高座豚研究班
- ⑥ 綾瀬市食生活改善推進協議会
- ⑦ みんなで進める地域福祉おむすびころりん
- ⑧ 学童保育すこやかクラブ
- ⑨ ライフスタイルを考える会
- ⑩ NPO法人ふるさと環境市民

(4) 調査実施方法

質問を4つのテーマに分け、14項目の質問に対する聞き取りによる調査を行いました。

- ① 団体運営方式
 - a. 定例会開催頻度
 - b. 定例会開催場所
 - c. 年間計画・決算
 - d. 会計担当者
- ② 団体の拡大・発展のために今後取り組みたいこと
- ③ 商店会との協働
 - a. 今後進めたいこと
 - b. 可能性のある分野
 - c. 必要な条件整備
- ④ 現在活動を進めるうえで困っていること、ネックとなっていること
 - a. 資金面

- b. 定例的な活動場所の確保
- c. 事務所確保
- d. 団体活動を進める人材
- e. 団体運営の知識・経験
- f. 外部協力者・支援者・スポンサー

2 調査結果

(1) 団体運営方式

- ① 定例会開催頻度：定例会は、隔月例会は1団体のみ
年間計画の作成時に決められる団体が1団体、残りの8団体が月例会となっています。
- ② 定例会の開催場所
 - a. 公共施設（綾瀬市役所）
 - b. 綾西高齢者憩いの家
 - c. 中央公民館
 - d. 綾西自治会館
- ③ 年間計画、決算
全団体で年間計画を作成し、決算を実施しています。
会計業務は、2団体は代表者が兼務し、その他の8団体は専任者を配置しています。

(2) 団体の拡大・発展のために今後取り組みたいこと

- ① 部門ごとの参加者増加と収入を得るスタッフの増加
- ② 現有体制を保ち、楽しかったと言ってもらえる行事企画
- ③ 国際ラウンジの開設、外国籍市民のネットワーク作り、日本語教室の充実
- ④ メンバーの高齢化に対処するため、活動を担う若い人材、活動できる人材の獲得
- ⑤ ターゲットを定めたきめ細かい年代別食育活動
- ⑥ ケアの必要な老人の参加を目指し口コミによる会の拡大
- ⑦ トイレの改善、安全対策として、非常口の増加
- ⑧ 会員は様々な団体を設立しており、綾西のみならず綾瀬市全体に及ぶ方針を継続
- ⑨ 綾西地区の建て替え時期に合わせた、太陽光発電のファンドの立ち上げ

(3) 商店会との協働に対する意見

- ① 今後進めたいことに関する肯定的意見
 - a. 空き店舗を利用したコミュニティビジネスの準備会を立ち上げている。
 - b. 機会があればイベントに参加したい。
 - c. 綾西バザール商店会の公園内での催し物に協力する。
 - d. 毎月1回、綾西バザール商店会内で、「青空サロン」を開催。
- ② 今後進めたいことに関する否定的な意見
 - a. 雰囲気が明るくない。ここにレストランを開店したとしても難しいとみている。
 - b. 普及活動、ボランティア活動に専念したい。販売や営利に絡むことはしたくない。

- c. 進めたい気持ちはあるが難しい。ボランティア団体なので利益は出せない。費用面や、集客、開場セッティング等の負担は現有体制では困難と考える。
- ③ 可能性ある分野に関する肯定的意見
 - a. トイレの利用。高価格、納期で問題もあるが、綾西バザール商店会から仕入れをしており、なくなると困る。
 - b. 地区社会福祉協議会、ふれあいサロンのような場の提供。
 - c. 現在の「青空サロン」を発展させていく。できれば、コミュニティビジネスとしての可能性にチャレンジしたい。
 - d. フリーマーケットへの協力と「青空サロン」（商店会の公園で開催）
- ④ 可能性のある分野に関する否定的な意見
 - a. 可能性ある分野はない。
商店主の考え方に新しさが少なく、誰かの支援を待っているように見えてくる。
 - b. 普及活動、ボランティア活動に専念したい。販売や営利に絡むことはしたくない。それと共に、団体へ今以上の負担が増えることは難しい。
 - c. 進めたい気持ちはあるが難しい。ボランティア団体なので利益は出せない。費用面や、集客、開場セッティング等の負担が困難となる。
その他、「今は特にやっていない」、「特にない」、という意見が2団体からあげられています。

(4) 商店会との協働に必要な条件整備

- ① 地域活動団体として必要な条件
 - a. 住民の趣味を生かせること
 - b. 自分たちの分は自分たちで資金拠出すること
 - c. 行政の支援により、買い物が可能になること
 - d. 将来的にNPO法人も視野に入れておくこと
- ② 商店会として必要な条件
 - a. 皆で資金を出し合うこと
 - b. 場所の提供、資材の廉価提供、広告・宣伝の担当
 - c. 相当のバックアップが必要
 - d. 協働事業で必要になる配達や出荷への努力
 - e. 空き店舗の安い家賃での賃貸
 - f. 空き店舗活用、解消にむけての真剣な検討
- ③ 行政へ期待する条件
 - a. 特定団体への肩入れしすぎに注意
 - b. 市の広報紙などを利用した広告と人集め
 - c. 市内の若者（若者は柔軟な発想力がある）からアイデア募集
 - d. 相当のバックアップが必要
 - e. 団体自立のため、介護保険で何%かを市側で助成
 - f. 今後開始する予定のコミュニティビジネスへの支援
 - g. 空き店舗を借りる場合、家賃補助、改築費用補助などの具体的な支援について

行政を交えた3者での話し合い

(5) 現在、活動推進上で困っていること、ネックとなっていること

① 資金面

- a. 現状、補助金も含めてようやく収支均衡が取れている。
- b. 補助金を受給しているが、公共施設利用で会場費はゼロである。
- c. 補助金が年々減っており、補助金から県・市老連の会費を納付し残り僅かである。
- d. 年会費、市補助金、社会福祉協議会からの補助金でようやく運営している。
- e. 参加費用の範囲内で運営しているので困っていない状態である。

資金面では、困っているという団体が3団体あるほか、困ってなくても上記のような聞き取り結果となっています。このように、資金的には、補助金、年会費によりようやく収支均衡という意見がほとんどであり、コミュニティビジネスなど新たな事業に取り組むには、補助金などによる新たな支援なしには、難しい状況にあります。

② 定例的な活動場所の確保

- a. 公共施設を使用している団体多数
- b. 会員が多い団体は手狭状態
- c. 事務所

全般的に今後、会員数が増加した場合、月例会の開催方法の検討も必要となります。

③事務所確保

- a. 大半の団体が代表者の家を事務所代わりとする。
- b. 事務所を要するほどの行事もなく、活動場所と事務所を兼用している。

④ 団体活動を進める人材

- a. 企業退職者、公職経験者をはじめとして人材は豊富（1団体）である。
- b. 使えるボランティアが不足している。
- c. 後継代表者の人材（現代表者の片腕となり、将来の会長候補）がいない。
- d. 実際に活動できる年齢層の会員が少ない。
- e. 団体活動を進める指導員が欲しいが、待遇改善なしには集まらない。

相対的に人材不足を挙げる声が大きくなっています。

⑤ 団体運営の知識・経験

- a. 代表の人的ネットワークを生かして、他団体と相互に団体運営の知識経験で助け合いし運営している。
- b. 10年間の運営経験を生かして運営する。
- c. 色々な人をまとめることができる経験が必要、運営に関する知識、経験が必要。

⑥ 外部協力者・支援者・スポンサー

- a. スポンサーはいないが、人的協力を惜しまない人はいる。
- b. きらめき補助金を利用している。

- c. 社会福祉協議会、青少年健全育成協議会、老人会で資金面が大事。
- d. 当初発足時に会員の祖母の一人から寄付を受領（今はなし）した。
- e. 地元企業から寄付を受けている。

上記のほかに、外部協力者・支援者・スポンサーは特にないという団体が 3 団体あります。

⑦ その他の回答内容

綾瀬市だけでなく、海老名市、大和市、座間市、藤沢市等と連合した活動が求められる。

3 コミュニティビジネスの創出に結びつく地域ニーズ

コミュニティビジネスの創出に結びつく地域ニーズとして、地域活動団体からの調査結果として掲げたものから、まとめると以下の点が挙げられます。

(1) コミュニティビジネスに関する地域のニーズと課題

① 地域住民および団体構成メンバーの高齢化に対応するニーズと課題

- a. 綾西バザール商店会の雰囲気明るくないため、ここにレストランを開店したとしても難しいとみている。
- b. 普及活動、ボランティア活動に専念したい。販売や営利に絡むことはしたくない。
- c. 進めたい気持ちはあるが難しい。ボランティア団体なので利益は出せない。費用面や、集客、開場セッティングなどの負担は現有体制では困難。
- d. 高齢化に伴い、地域団体の果たす役割は重要だが、資金面、メンバーの高齢化などで活動できる若手の人材面で十分ではない。
- e. 高齢化の中で、団体運営の知識・経験は十分ではない。外部協力者・支援者、スポンサーについて、特にないとする団体が多くなっている。
- f. 地域団体単独では、活動場所のことや行事内容で制限が出てきてしまう。

② 団体の拡大・発展のために今後取り組みたいことについてのニーズと課題

- a. 外国籍住民に向けた国際ラウンジの開設、外国籍市民のネットワーク作り、日本語教室の充実。
- b. 空き店舗を市で借り上げて他の団体との共同事務所を常設の事務所として設置してほしい。
- c. 団体の拡大発展には、専門的知識の醸成など、人材育成が必須。

(2) コミュニティビジネス創出に向けた活動

- ① コミュニティビジネス創出への定期的協議（地域活動団体代表者、商店会、行政）
コミュニティビジネス創出に向け、事業化企画実現のために、地域活動団体代表者、商店会、行政の 3 者での定期的な協議が必要です。

コミュニティビジネスの創出には、実現可能性を含めた計画を作成して役割分担を明確にすること、広報紙による地域住民への参加呼びかけにより、事業参加者の一体感、

参加意識を醸成することも欠かせません。催し物の開催場所として、綾西バザール商店会内の公園が最適です。十分な広さがあり、地域住民のコミュニケーションをはぐくむ場として、ふさわしいと考えます。地域団体、商店会が成果を感じるためにも、少しでも利益を出すことが望まれます。

② 地域活動団体の今後の展望

地域活動団体の現状では、ほとんどの団体で人材、資金ともに余裕のない状況であり、現状のままでは新たに事業を行うことは難しい状態です。

地域団体の今後を展望するとき、資金ネック解決の一方策として、補助金受給による収支改善があります。補助金受給で資金に余力を持ち、新規活動の源泉とすることで成功事例を作り出していくことが重要です。活動の成功による相乗効果で、住民の関心を引き、参加意欲が高まります。このような積み重ねは、コミュニティビジネスの拡大、発展のために極めて有効と考えます。

(4) 調査結果から得られる地域活動団体としてのコミュニティビジネスの事例

- ① 独居高齢者、および高齢者世帯に対するケア、介護サービス
- ② お年寄りと子供などとの交流のできるコミュニティサロンの運営
- ③ 高齢化した住民に対する行政機関の委託を受けた代行業の運営
- ④ 地域活動団体と医師の共同での、巡回医療サービスの委託運営
- ⑤ お年寄りを対象とした、各種イベントの企画と実施
- ⑥ お年寄りを対象とした、シルバー大学、生きがい事業の運営

第5章 地域住民調査報告・意見交換会に見る地域ニーズ

1 地域住民調査報告・意見交換会開催内容

(1) 日時

平成23年8月23日(火) 14:00~16:00

(2) 場所

綾瀬市役所1階会議室

(3) 参加者数

22名

属性：地域住民、自治会、綾西バザール商店会、地域活動団体

(4) 内容

- ① 住民アンケート調査の基本趣旨・経過説明
- ② 住民アンケート調査結果説明
- ③ 意見交換会
- ④ 立川市のコミュニティビジネス事例説明

2 アンケート結果から見える傾向と意見交換会での意見について

アンケート配布件数300件に対し、150件の回答を受けて、住民の地域に対する意識の高さがうかがえました。

(1) アンケート結果の傾向

アンケートでは、問題意識の高さと日常生活への受け身の姿勢が見られました。また、コミュニティビジネスの取り組みへの質問に対する選択を見ますと、

① 利用すると思う

簡単な大工仕事を安い料金で頼めるサービス、味良く健康にも良いレストラン

② 内容を見てから判断する

気楽に集まることができる憩いのカフェ、高齢者対策としての買い物支援、委託販売のボックスショップという結果でした。

この選択から、コミュニティビジネスを行うにあたり、住民ニーズとして実用的な生活支援型への傾向を見ることができます。また、①身近に他人が入り込むことへの不安感がある、②価格や品物の信頼性、安全性への疑問などが読み取れます。

(2) 意見交換会での意見

一方、意見交換会での意見を集約すると、

- ① 綾西バザール商店会の現状と今後
- ② 住民側の意見
- ③ コミュニティビジネス支援
- ④ コミュニティビジネスへの行政の取組
- ⑤ アンケートの自由回答についての集計要望

などが述べられました。

具体的発言では、

①については、住民の高齢化と合わせ商店主の高齢化が進んでいること、体力的ハンディや商売へのモチベーションの維持が懸念されることから、これからどうしようとしているかといった質問や建物の老朽化による危険性への対応などの意見が出ました。

また、空き店舗については貸しやすくするための改築費用のねん出が難しいこと、近年の来店客数の減少についてなどの発言がありました。

②については、今まで自治会と商店会との間で話し合いの機会を持たなかったため、改めて意見交換の場を持つことが提案されました。また、交通の便についても要望が出されましたが、便が良くなる一方で、人が流出やすくなると指摘する意見も出されました。

③については、現在は調査を委託している状況であり、今後のコミュニティビジネスへの支援は別事業となることを綾瀬市より説明しました。

④については、行政としてのコミュニティビジネスの支援方法を検討している段階であり、これから具体的な調整に入ることを綾瀬市より説明しました。

⑤については、さまざまな意見を要約すると、綾西バザール商店会のにぎわい増進への期待、支援への協力、ビジョンの必要性など、商店会の充実を期待する意見が多数を占めました。また、高齢化対策として、住みやすい環境、若者の流入への関心、仲間作り、生きがい作りの必要性、趣味・特技の利用などの意見が出されました。

3 地域ニーズについて

アンケート結果や綾西地区の特徴から地域ニーズについて検索してみました。

(1) 綾西地区の特徴

高齢化が進行しており、戸建が多数あります。また、坂の下に小学校、坂の上に綾西バザール商店会が位置しているなど、坂が多い街並みです。地理的状況から日常交通手段としてバスや自家用車を使用する機会が多く、買い物にも利用しています。その結果、徒歩での買い物は限定的です。住民の社会意識が高いことなども特徴として見られます。

(2) 商店会の特徴

商店主の高齢化が進行し、建物も老朽化の程度が進んでおり、空き店舗も目立ちます。表通りに面していないため人通りが少ない、道路の向かい側にある駐車場は出入りがしづらいなどの特徴があります。また、商店会が商店会内スーパーマーケットに高く依存していることも想定されます。

(3) 地域ニーズの把握

綾西地区の特徴である、商店会の空き店舗対策、にぎわいの創出と住民の高齢化、実用的な生活支援型への期待、安心・安全への要求などの視点から、地域ニーズを探ると下記が考えられます。

事業	内容	具体例
地域活性化	イベント開催	祭りなど
	地域資源活用	特産品販売など
	飲食産業	食堂、地産地消など
	文化	芸術、演芸など
福祉関連	高齢者福祉サービス	買物・家事支援、活動補助など
	児童福祉サービス	学童保育、託児所など
	障害者福祉サービス	手話、点字、同伴行動など
	調理サービス	給食、配食など
生活関連	健康づくり	健康相談、スポーツなど
	身近なまちづくり	広場、植栽など
	情報発信	タウン誌など
	交通サービス	乗合タクシーなど
	防犯サービス	消防見回りなど
	教育	コミュニティスクール、カルチャースクールなど
	農業	家庭菜園、園芸など
環境関連	資源再生	リサイクルなど
	環境保全	エコツアー、里山、清掃など
	施設	コンビニ、本屋、ATM、行政分所など

第6章 行政が行うコミュニティビジネス支援事例

1 綾西地区コミュニティビジネスのあり方

(1) 綾西地区コミュニティビジネス創出の目的

綾西地区は昭和45年から46年にかけて、電鉄系業者により大規模開発された戸建て団地です。現在は、住民同士の付き合いも薄い状況です。住民が相互に助け合い精神を發揮したくても、今のままでは自ずと限界が見えてきます。

住民アンケート結果の分析など、本報告書各章の記述に見られるように、この地域で懸念されるテーマは年を追うごとに増えていくことが推測されます。それは、住民の高齢化、老夫婦を中心とする少人数世帯の増加、日々の買い物負担増加、防災などの問題に象徴的に表れてきています。

視点を変えれば、住民が自覚し始めた生活上の不便や課題を、行政だけですべて解決することが難しいのも事実です。課題にどう向き合うか、行政および利害関係者による迅速な取り組みが期待されています。

一方、団地開発と期を同じくして長い間、地域住民の主要な消費を担ってきた綾西バザール商店会も、店主の高齢化や地域購買力の自然減少などの課題に直面しています。

往時に近い繁盛を見ることも、今では年数回のイベント時など数えるほどになりました。店主の潜在的なエネルギーはまだ脈々とあるといえます。しかし、アーケードや個店のたたずまいなど、商店会設備の老朽化が進み、訪れる誰の目にもはっきりと分かるようになりました。近年、海老名市や綾瀬市役所周辺の大規模商業施設に顧客が流れていくことを店主の誰もが感じ、空き店舗も目立ちます。

買う側、売る側それぞれの事情が幾重にも入り組み、綾西バザール商店会では買いたい物がそろわないなどの声が住民の中に聞こえてきました。

今、綾西地区では、住民生活上の不便や不満と、綾西バザール商店会が抱える商業地としての地盤沈下という地域課題があります。綾瀬市では、商店街にコミュニティビジネスを創出することで、商店街の空き店舗を活用し、地域コミュニティの核となる商店街づくりを推進することにしています。綾西バザール商店会を綾西地区の核に再び位置づけることにその目的があります。

(2) 綾西地区のコミュニティビジネスに求められる要件

コミュニティビジネスは、ビジネスの手法により地域課題の解決を目指します。その実体は、地域住民を中心メンバーとする会社、NPO、組合などが事業主体となり、生活支援、生活介護、子育て支援、商店街活性化などの地域振興を目指す事業活動です。その使命は、社会に貢献したい、自己実現を図りたいなど、個人の内面的思いを中核に、様々な地域課

題を解決するために収益を確保しながら、持続的な事業活動を行うことにあります。

綾西地区のコミュニティビジネスは、利益を追求した経営活動とは一線を画します。そこには、綾西バザール商店会復活を含めた地域課題を解決するという目的があります。同時に、継続的な活動を行うために、事業として求められる利益を確保していくことが大きな要件です。

2 行政が行うコミュニティビジネス支援

(1) 行政が期待するコミュニティビジネスの効果

視点を全国の地方自治体に広げると、各地域の行政がコミュニティビジネス創出を促す要因を下記に集約することができます。

- ① 地方経済の低迷や地方財政の悪化を食い止める手段として、新しい雇用を生み出してくれる事業機会の創出が求められています。
- ② 地域によっては、商店街の空き店舗化やロードサイドの大規模商業施設の開業により中心市街地の衰えが進み、復活のきざしが見えません。加えて、高齢化による少人数世帯の増加など、地域コミュニティを支える世帯基盤の活力と勢いにも、陰りが見え始めてきました。
- ③ 中心市街地や、古くから続いてきた在来商店街の力が衰えを見せ始めた結果、商業活動そのものが、売上高、商店数、従業員数などの指標で成長性の鈍化ないしマイナス成長に転ずるようになりました。

地方行政は、一つにはこのまま放置できない課題や大きな流れを止める方策として、二つ目は民間との協働を加速化させる有効な方法として、コミュニティビジネス創出と持続に大きな期待を寄せています。その一方で、以下の点も語られています。行政はコミュニティビジネス支援を進める中で、行政コストの制約から、所管する地域の課題や既存のコミュニティビジネス実態の把握、調査にまでは十分に手が回っていない状況もあります。本格的なコミュニティビジネス支援を進める際は、民間も活用した地域課題・地域ニーズの綿密な実体調査が必要となります。

(2) コミュニティビジネスへの行政支援の姿

① 支援策の種類

都道府県、市町村レベルの行政体が行う支援の種類は、大別して普及・啓蒙活動、経営相談、補助・助成事業、融資制度と、4種類の支援策があります。更にコミュニティビジネスが形成される過程に着目すると、支援策は、「コミュニティビジネスの立ち上げ支援」と「事業展開・継続支援」の二つの局面に大別されます。

コミュニティビジネス支援を実際に担当する窓口は、商工観光部門、商工労働部門、商工振興部門、福祉サービス部門が大半ですが、場合によっては土木建築部門、企画政策部門が担当する自治体もあります。その他、社会福祉協議会や地方自治体が独自に設立した財団に支援業務を委託するケースも事例として見ることができます。

② 支援類型のまとめ

図表 8-1 支援類型のまとめ

支援類型	局面	具体的な支援策
普及・啓蒙活動	事業立ち上げ支援	創業手引き書・先進的な事例集作成、コミュニティビジネス起業講座の実施、フォーラム（会議）・推進協議会の設置、ホームページ構築、コミュニティビジネスプラン・コンペ開催、ネットワーク組織形成
経営相談		創業相談窓口開設、行政によるアドバイザー派遣、相談会開催、コミュニティビジネス促進チラシなどによる情報提供
補助・助成	事業展開・継続支援	創業支援資金制度
融資制度		小規模融資制度設置、コミュニティビジネス向け制度融資枠確保
その他		委託事業公募、継続的な事業委託によるコミュニティビジネス財政基盤の確立支援

(3) コミュニティビジネス事業者への行政支援策例（関東、甲信越、東海の地域）

コミュニティビジネス・NPO 活動に対する行政の窓口・支援策をホームページや報告書から抜粋（平成 23 年 10 月現在）。

図表 8-2 コミュニティビジネス事業者に対する支援策（例）

県	市区名	支援事業名	具体的な支援内容	部課
埼玉県	さいたま市	地域密着型コミュニティビジネス育成支援事業	多様化する地域の福祉課題解決のためにNPO法人等が実施する先駆的なビジネススペースの取組に対し市町村を通じて助成する。 モデル的な取組として県内に広く普及することを目的とする。 補助率：県1/3・市町村1/3・事業者1/3限度額：200万円	産業労働部 産業労働政策課

図表8-2 コミュニティビジネス事業者に対する支援策（例）

県	市区名	支援事業名	具体的な支援内容	部課
埼玉県	さいたま市	創業相談	起業家等が抱える課題の解決に向け、ワンストップで相談に応じるほか、各種情報提供などを実施。 ・民間専門家（開業アドバイザー）が起業家からの相談に対応 ・相談後のフォローアップ支援	埼玉県創業・ベンチャー支援センター
千葉県	我孫子市	コミュニティビジネス起業家講座	コミュニティビジネスを立ち上げるため、起業化に向けたノウハウなどを学習する講座。	環境生活部 市民活動支援課
東京都	杉並区	コミュニティビジネス振興事業	シンポジウム、セミナー開催 CBについての基調講演、NPOや会社でCBを実践する女性起業家による意見交換会を開催。セミナーは実際にCBの起業を目指すためのノウハウを講義。	産業振興課
東京都	板橋区	板橋区商店街空き店舗入居者支援事業	店舗の施設整備に関する費用の3分の2以内（限度額100万円）を補助する。 家賃補助を行う。	区民文化部 商工振興課
東京都	板橋区	コミュニティビジネスモデル支援事業	コミュニティビジネスプラン・コンテストを実施、各賞を決定し、合わせて賞金を贈呈、表彰する。 ・最優秀賞（起業前部門、起業後部門）10万円 ・審査員奨励賞（起業前部門、起業後部門）5万円 ・テーマ賞（各部門共通）3万円	区民文化部 商工振興課

図表 8-2 コミュニティビジネス事業者に対する支援策（例）

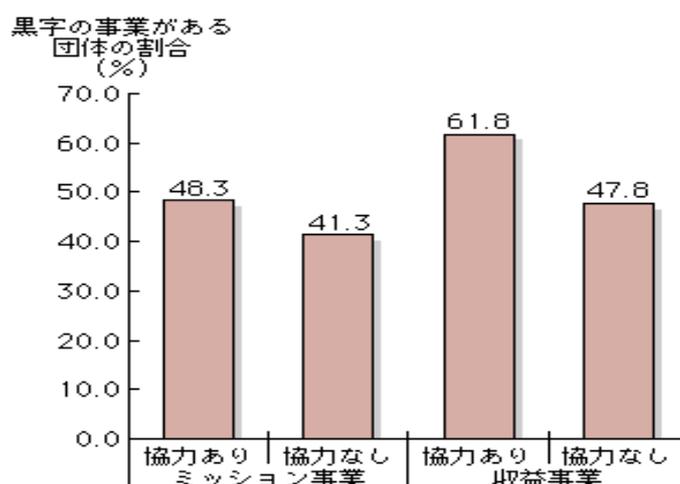
県	市区名	支援事業名	具体的な支援内容	部課係
神奈川県	川崎市	川崎市空き店舗総合活用事業	<p>地域コミュニティの場としての商店街の活性化を図るため、商店街振興組合やNPO法人などが空き店舗を利用して保育施設や高齢者向けの交流施設などのコミュニティ施設を設置する事業に対して助成を行う。</p> <p>補助限度額 300 万円以下（国庫補助該当の場合 600 万円以下） 補助率 2 分の 1 以下（国庫補助該当の場合 6 分の 5 以下）</p>	経済局産業振興部商業観光課
新潟県	新潟市	商店街空き店舗運営事業	<p>商店街等の組合が空き店舗を賃借しコミュニティ施設や共同店舗として有効利用する事業で改装費及び賃借料の一部を補助する。</p> <p>補助率等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗改装費：30% 補助金限度額：2 億円 ・賃借料：50% 補助金限度額：年間 300 万円（3 年間） <p>チャレンジショップ事業</p> <p>商店街等の組合が空き店舗を賃借し、商店街の不足業種を誘致し出店させる事業で、テナントミックスと新規出店者への支援を目的とする事業。</p> <p>補助率等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賃借料：50% 補助金限度額：年間 150 万円（1 年間） 	商工労働部商業振興課
静岡県	沼津市	沼津市高齢者生きがい創造事業	<p>高齢者の持つ技術、知識を活用した生きがい活動を行うグループに対し、事業の立ち上げに要する経費を補助。</p> <p>（年 30 万円を 3 年間）</p>	市民福祉部長寿介護課

3 コミュニティビジネスへの行政支援による影響

サービス産業としてのコミュニティビジネスがボランティア活動と異なる点は、地域貢献型事業でありながらビジネスとしての継続性を持つ点です。中小企業白書によると、半分以上の団体が本来事業では黒字を計上していませんが、主に収益を得るための事業（収益事業）も手掛けることにより本来事業の継続を図っています。そのためには行政機関との連携が必要となります。行政の事業委託や資金助成、施設などの貸与・利用推薦を行い、事業の収益性確保への支援が有効な手段です。

参考に、行政との協力により収益に影響を受けた調査資料を添付します。

図表5-1 行政機関の協力と黒字事業の有無
～ミッション事業・収益事業ともに、行政機関の協力がある方が黒字になりやすい～

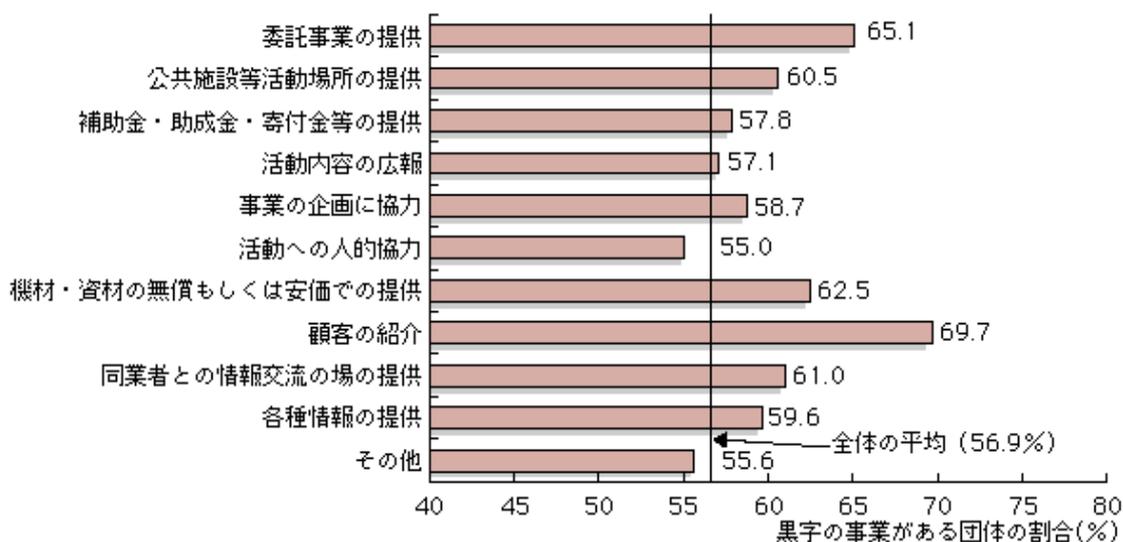


資料：(株)日本総合研究所「社会的起業家の実態に関する調査」(2003年12月)

(注) 詳細な分析については、付注2-1-14を参照。

2004年版中小企業白書より抜粋

図表 5-2 行政機関の協力の種類と黒字事業の有無
 ～委託事業の提供や顧客の紹介などが、特に収益を安定化させる～



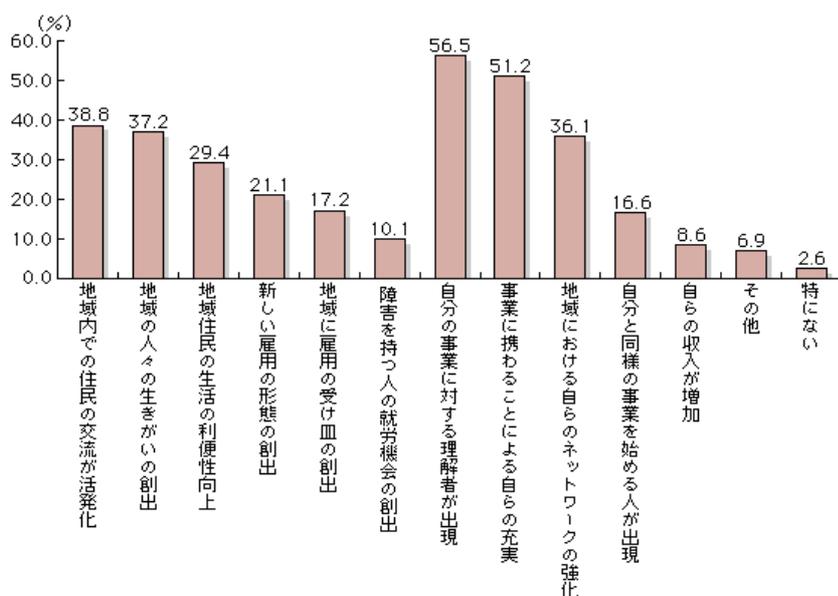
資料：(株)日本総合研究所「社会的起業家の実態に関する調査」(2003年12月)

(注) 詳細な分析については、付注2-1-15参照。

2004年版中小企業白書より抜粋

また、コミュニティビジネスが地域活性化に与えた影響についての調査資料を添付します。

図表 5-3 コミュニティビジネスの活動が地域に与えた影響
 ～地域内での住民の交流が活発化するなど、地域にもたらす効果は大きい～



資料：(株)日本総合研究所「社会的起業家の実態に関する調査」(2003年12月)

(注) 複数回答のため、合計は100を超える。

2004年版中小企業白書より抜粋

第7章 綾西地区のコミュニティビジネス創出に向けて

1 綾西地区のコミュニティビジネス創出をどう進めるか

綾瀬市の商業は、市役所近隣の大型ショッピングセンターを始めとする「商業中心核づくり」により整備が進められています。

一方、地域に密着する個別商店街では、店主の高齢化、跡継ぎがない、青年層も少ない、経営不振などから、空き店舗もここ10年ほどで増加しつつあります。綾瀬市が進める地域商店街の活性化は、地域住民アンケートの回収率の高さから、住民にとっても生活の質を左右する関心度の高いテーマと思われます。

綾瀬市では、平成22年12月に「産業振興マスタープラン」が策定され、「地域コミュニティの核となる商店街づくり」に着手しました。この第一歩として、「商店街の空き店舗を活用する取り組み」を実現するために、空き店舗を活用する商業の担い手として、コミュニティビジネス創出の可能性を把握することが必要となりました。

コミュニティビジネスの事業としての見込みを把握するためには、「地域課題は何か」、「地域から求められるニーズや取り組みは何か」、「コミュニティビジネスに結びつく具体的取り組みはあるか」などをきめ細かく知る必要があります。

本調査・研究では、「地域コミュニティの核となる商店街づくり」を最終目的として、商店街空き店舗にコミュニティビジネス創出の可能性を把握するため、3種類の調査を実施しました。地域課題を把握するための住民アンケート、商店街の現状を知るための商業者意識調査、コミュニティビジネスの創出につながる可能性を知るための地域活動団体意識調査です。

これらの調査結果に関する本報告書各章の分析を踏まえて、本章ではまず住民アンケート調査で確認された綾西地区の住民像と生活者としての思い、地域ニーズや課題を集約します。次に、商店会など、コミュニティビジネス創出を直接受け入れる側の環境や、受け入れを実際に可能にする下地を要件として抽出します。これを踏まえて、綾西地区にどのようなタイプのコミュニティビジネス創出の可能性が高いかを予測し、コミュニティビジネス推進の基本的な考え方を述べます。

最後に、綾西地区でコミュニティビジネスの立ち上げと継続には、それぞれ留意すべき要素があります。事業立ち上げと事業継続を可能にする必須ポイントを重点的に解説します。

2 コミュニティビジネス創出を期待する地域ニーズ

(1) 綾西地区の住民像

住民アンケート回答者の平均年齢は66.2歳であり、60歳代、70歳代回答者の回答全体に占める比率は74%となりました。この比率が高いということは、高齢者が多く居住し、綾西地区への関心が非常に高いということにもつながります。事実、綾瀬市の人口統計によれば、綾西地区（1丁目～5丁目）全体の高齢化率（65歳以上の高齢者人口が総人口に占める比率）は38%（加重平均）を示しています。

この高齢化率は、住民4人のうち1.5人が65歳以上の高齢者となる計算です。綾瀬市全体の高齢化率22%、平成21年の我が国の高齢化率23%をはるかに上回り、統計数字の上からも、綾西地区は高齢化が確実に進んでいることが分かります。

図表7-1 綾西地区の高齢化率・平均年齢

地域	高齢化率			平均年齢（歳）		
	地区全体	男	女	地区全体	男	女
綾西1丁目	36%	33%	38%	省略	省略	省略
綾西2丁目	39%	36%	42%	〃	〃	〃
綾西3丁目	43%	43%	43%	〃	〃	〃
綾西4丁目	43%	40%	45%	〃	〃	〃
綾西5丁目	29%	29%	29%	〃	〃	〃
綾西地区全体	38%	36%	39%	51.2歳	50.0歳	52.4歳
綾瀬市全体	22%	20%	23%	43.1歳	42.3歳	43.9歳

出典：平成23年9月1日 綾瀬市住民基本台帳人口統計

住民アンケートの問17「これからの綾西地区のあり方全般への意見」（自由記述欄）からうかがわれる、綾西地区住民の生き方と生活のイメージは以下のとおりです。

- ① 遠方への移動手段は自家用車を主に利用する。海老名市へも気軽に出かける。
- ② 現在はまだよいが10年後に車を捨てたとき、頼れるのは綾西バザール商店会となる。
- ③ 健康・介護・食事の問題で、一人暮らしになった時を不安に感じている。
- ④ 退職後、家にばかり閉じこもっていただくはない。日帰り旅行にも行きたい。
- ⑤ 70歳代、80歳代でも図書館で知識を吸収し、散歩で健康維持と気分転換を図りたい。

詳細に書かれた「意見」を分析すると、知的好奇心も豊かで、健康維持への旺盛な意欲を持つ元気な住民像が浮かび上がってきます。今は、住民同士のつながりは薄くても、更に高齢になった時のことを考えれば、住民同士でお互いの助け合いが必要との意見も多くありました。「意見」から5年後、10年後も引き続き老後の生活を託す綾西地区への不安は多くあることが分かりました。それらが住民アンケート回答の中に色濃く反映され、高い回収率を生んだと見ることができます。

(2) 綾西地区住民の地域ニーズ

綾西地区住民が課題としてあげたテーマには、大きく分けて2つの側面があります。その一つは、現在の生活環境への課題です。もう一つは、これから先、今よりもっと年老いた自分の姿を今の生活環境に重ねて見ると、漠然と感じてくる不安や不満です。アンケート回答者の88%が不便や課題はあると回答しました。

地域ニーズ（不満や課題）としての意見は以下のとおりです。

- ① 最寄り駅に行くのに時間がかかる。
- ② おいしいものを食べられる店がない。
- ③ 庭の草取りや整備が大変になってきた。
- ④ 自分や配偶者の健康面に不安がある。
- ⑤ 大災害の時、地域での避難所が心配になる。

多少留意すべきと思える傾向は、不便や課題があるとした59人のうち半数弱が「気にならない」と回答していることです。「気にならない」の理由も、「当面自分の生活には影響がない」、「綾西地区以外で解決する道がある」が大半（86%）を占めていることです。つまり、当面はまだ乗り切れると考えている、綾西地区には期待してない、というに等しいのです。課題やニーズを、是が非でも今すぐに綾西地区で解決してほしいという、切羽詰まったニーズの強さは把握できません。

今後の綾西地区はどんな変化を遂げているかを仮説として予測してみます。住民の平均年齢は56歳を越えると仮定して、綾西地区全体の高齢化率は恐らく40%を越えるでしょう。綾西地区、綾西バザール商店会の予想される姿は以下です。

- ① 車を捨てる住民が多くなる。海老名市などへの遠出はバス交通への依存度が更に増す。
- ② 買い物は綾西バザール商店会が、生計・生活維持の重要な手段となる。
- ③ 5年前には気にはならなかった健康、介護、孤食の問題がクローズアップされてくる。
- ④ 住民相互の支援組織・団体により、綾西地域での生活環境が維持できる。
- ⑤ 綾西バザール商店会の存在感は増すが、店主の高齢化、設備老朽化も更に進む。

地域で気軽に利用出来る介護ステーション、介護福祉施設、ヘルパーステーション、救急病院、リハビリ医療機関、弁当宅配業者など、生活支援、医療施設、介護支援のニーズが増え、いわゆる生活関連社会資本の整備充実・強化が大きな課題になることが予想されます。綾西バザール商店会の必要度は一層高まり、店舗を継続していくと予測します。

3 コミュニティビジネス創出の要件

(1) 綾西地区で創出が期待されるコミュニティビジネス

空き店舗を活用するために商業の担い手として期待されるのは、従来型の商業者だけで

はありません。地域課題の解決と同時に利益実現も目指す事業として、コミュニティビジネスが期待されています。

住民アンケート回答の中では、以下のコミュニティビジネス事例へ「利用すると思う」との期待が示されています。

注：（ ）内は回答数における「利用すると思う」の比率（％）

- | | |
|------------------------|-------|
| ① 特産品、地元産品を使ったレストラン | (43%) |
| ② 簡単な大工仕事を安い料金で頼めるサービス | (40%) |
| ③ 気軽に集まり、お茶ができる憩いのカフェ | (27%) |
| ④ 買い物支援、宅配（有料）サービス | (25%) |
| ⑤ 委託販売をするボックスショップ（棚貸し） | (12%) |

「綾西地区のあり方全般への意見」（自由記述欄）では、進む高齢化への危惧と防衛、生活水準維持への切実な要望から、より多彩なコミュニティビジネスへの期待が感じられます。

多くの要望の中から、より必要度が高いと思えるものを以下に例示します。

- ① コンビニがほしい。車の運転ができなくなれば必要になる。
- ② 高齢化、虚弱化に向け有料の外出付き添い、家事援助など小さな援助体制がほしい。
- ③ 高齢者が増える中、皆で助け合っでの生活と共に、高齢者も自立し役立ちたい。
- ④ 高齢化に伴い、老後を安心して生活できる介護施設の設置を考えてほしい。
- ⑤ 老人用品の取次店、弁当屋、災害用品、通販申込み、市役所手続き所がほしい。
- ⑥ 住民全体が年を取ってくるので病院通い、趣味のため、安い経費の車で移動したい。
- ⑦ 地域の人たちが気軽に集まれる場所、一人暮らしのとき、食事できる場所がほしい。
- ⑧ 住民同士のつながりが薄いので、一人暮らしになったとき、憩いの場所がほしい。
- ⑨ 高齢化が一番の心配、災害対策や買い物支援で車での移動を少なくする対策が必要。
- ⑩ 空き店舗に高齢者が買い物をした後、一休みできる部屋があればよい。

住民アンケートの自由記述意見を細かく分析していくと、高齢化が進むことへの懸念と、対応への強い期待も多く見られることが分かりました。住民アンケートは、福祉公益目的のコミュニティビジネスへの期待も多くうかがわせる結果となりました。

（２）コミュニティビジネス創出に必要な受け入れ側の要件

綾西バザール商店会の空き店舗に、住民が期待するコミュニティビジネスを創出するためには、ニーズとシーズの関係から創出に必要な経営資源を提供する側の要件も重要です。

コミュニティビジネス創出の利害関係者として、商業者及び地域活動団体の意識調査結果から、創出に必要な要件を分析します。

① 綾西バザール商店会

空き店舗へのコミュニティビジネス入居と営業を商店会が受け入れることが、最大の

要件です。当商店会では60歳以上の事業主は12人を数え、年齢を回答した方18人の67%を占めます。自らの店舗設備の老朽化は全員が認識しています。聞き取りの回答の中に、経営状況や後継者難、資金面の制約から、個店の改装には慎重ないし消極的にならざるを得ない事情を見ることができます。

空き店舗への考え方は、「にぎわいのために空き店舗をなくすことが大事」、「にぎわいのためにイベント開催をしてほしい」との前向きな意見があります。反対に、「現行施設での活性化は無理、再開発で3階建てにし、1、2階を貸す」との厳しい考え方も見受けられます。空き店舗の実態を「個人所有のため、売りにたくない、貸したくない」、「客が少なく、空き店舗に出店してもやめていく」との見方があります。

空き店舗での開業に対して、商店会の考え方が一律ではないことも想定できます。個店の立場では、空き店舗を埋めることよりも頑張って営業する自分の店、商店会全体の整備を大事にしたいと考える意見があることも納得できます。

商業者意識調査でも施設・設備の充実、再開発、店舗誘致のための行政支援への期待感が示されています。空き店舗対策よりは、商店会抜本改善への行政支援が先決との意見もあります。

したがって、空き店舗にコミュニティビジネスを創出するには、物件という経営資源の供給側である商店会、空き店舗所有者に、利点や考慮点をオープンにした説明と話し合いが必要です。住民報告会で形成された対話の土壌を基礎に、行政、コミュニティビジネス創出側、商店会の3者による忌憚ない話し合いが望まれます。

空き店舗を賃貸するためには、賃貸物件として使えるようにする基礎的な整備にも、恐らく多額の資金が必要です。営業中の店舗でさえ「下水がにおう」、「雨漏りがする」、「諸設備が古い」などの改善箇所を認める意見もあります。2階に所有者が居住している場合は、空き店舗賃貸によって居住者の生活様式が変わることへの配慮も必要です。

② 地域活動団体

地域活動団体は、空き店舗へ創出するコミュニティビジネスと直接の競合関係にはないと推定できます。行事・イベント開催が主流で、事業的な業態を持つ地域活動団体が少ないことと、活動場所在競合しないためです。コミュニティビジネスに対する見方は、肯定的意見と否定的意見に分かれます。特に否定的意見では、事業を営む団体を除いて、ボランティア団体としての性格から、販売・営利・利益への抵抗感が根強いことにその理由が挙げられます。

地域活動団体からは、特定団体に対する行政の肩入れし過ぎに注意してほしいとの意見もあります。ボランティア団体、コミュニティビジネスは組織形態が任意団体であれ、NPO法人であれ、相互交流により活性化します。そのために苦しい時には知恵を借り、相談できるという人的関係性、ヒューマンネットワークの構築が望まれます。

特別なコミュニティビジネスのみが先行するという構図は、コミュニティビジネスが地域で長く受け入れられるかの点で、多少懸念もあります。コミュニティビジネスは立地するさまざまな環境で受け入れられ、好事例として手本にされることが望ましいのです。創出するコミュニティビジネスの運営者は、日頃からさまざまな地域活動団体との実のある密接なコミュニケーションにより、協力関係の構築が求められます。多くの場合訪れるとあってよい不調期、折り返し点を乗り切るためにも必要です。

(3) 綾西地区のコミュニティビジネス創出で必要な留意点

コミュニティビジネスを綾西地区に立ち上げ、所期の目的に沿った事業展開を行う上での特に重要な留意点を以下に述べます。

① ビジネスモデルの構築

コミュニティビジネスを立ち上げ、周辺の競合する商業施設に打ち勝って集客するためには、収益を継続的に上げることができるビジネスモデルの構築が必須となります。

顧客が来る仕掛け、儲けが出る仕組みを、立ち上げ計画立案時に慎重に探ることが不可欠です。社会的使命とともに、ビジネスとしての強みをどれだけ継続して発揮できるかの慎重なフィージビリティスタディ（実現可能性の事前検討）が欠かせません。市内または近隣市内で似た事業を営む先行事例を聞き、振り返って自身の事業体としての強み、弱みを確認しておくことも有効な対策です。

② 利益の中身に留意

コミュニティビジネス立ち上げ後、労力提供に対してふさわしい対価を支払うことに困難を伴うことも考えられます。多くのコミュニティビジネスは、ボランティアないし有償ボランティアの形で、自前労力を提供し合って人件費や運営費を圧縮し、やり繰りをしています。それが寄与して、利益を捻出できる事例は少なくありません。

自己実現や社会的使命感を満足させることで、有償ボランティアを一定期間続けていくことは不可能ではありません。しかし、いつまでもボランティアでは続きません。労働に対するふさわしい対価を支払えない間は、自立したコミュニティビジネスとはいえません。特に、労力提供者への交通費を支払うこともままならないコミュニティビジネスでは、収益力に何らかの問題点があります。ビジネスモデルから再考察すべきと言えます。

③ リーダーの経営資源の十分な分析と確認

コミュニティビジネス立ち上げに際して、リーダーが持つ経営資源は何か、自らの強み、弱みは何かなどの分析を活用して、自己分析を慎重に行う必要があります。成功しているコミュニティビジネスでは、リーダーのカリスマ性とでもいうべき独特の個性や人間性によって、組織が固められています。リーダー自身もまた重要な経営資源であり、その内容についての冷静な自己分析が求められます。

(4) 綾西地区におけるコミュニティビジネス創出のステップ

以上の分析を踏まえ、綾西地区におけるコミュニティビジネス創出には、少なくとも以下のステップを踏むことを提案します。

① コミュニティビジネスとしての理念とミッション（使命）の確立

綾西地区で何をしたいのか、なぜそうしたいのかを自らに問いかけ、自分がいつまでも抱いていける理念やミッションであるかを自問自答し、確立していきます。まず自分の使命感が強固であることが、将来予想される困難な時期を耐える源になります。

② 顧客ニーズの強さ、市場規模、競合者の調査

コミュニティビジネスといえどもビジネスである以上、通常の創業時の事業計画と同レベルの点検、確認が必要になります。

③ 経営資源の確認

経営資源には、綾西地区で活動する地域団体代表者との人的ネットワーク、協力者、労力提供者、資金提供者など、リーダー自身以外の人的要素も含まれます。地域課題があり、それを解決したいと願うサポーターが数多く集まることが理想的です。人が集まらない、途中で抜ける人が出るなどの場合は、どこかに無理があるのではないかと、立ち止まって考えることが望まれます。

④ 創業時の組織スタイル確認

資金出資者を募り株式会社とするのか、NPO 法人とするのか、その他の法人形態とするのか、それぞれの特徴を研究して最適の組織スタイルを見いだすことが肝要です。

⑤ マネジメント能力の研鑽

創業以前の準備段階の局面は云うまでもなく、コミュニティビジネスを支える幹部は、空き店舗に創業後も、経営者としてマネジメント能力（組織運営、売上拡大、利益拡大、黒字化、競合対策）の涵養に努めることが望まれます。必要に応じて、創業セミナーに通う、経営コンサルタントの知見・アドバイスを得る、事業自体への経営助言・支援を受ける、経営力の向上に努めることが成功の道につながります。

添付資料1 「綾西バザール商店会のあり方全般について」自由回答の集約
(第2章 問15.関係) (回答79件、無回答71件)

(以下は、非常に多い量の意見を含め1行程度に集約したものです。)

整理番号	回答要旨	年代	性別
1	空き店舗を活用してにぎやかにしてほしい。	60代	女
2	ある程度の品揃えを。本屋、文房具屋の復活をしてほしい。	50代	女
3	汚いので清潔にしてほしい。	未記入	女
4	高齢化対策として、サービス、サポートする店。	70代	男
5	桜通りも利用の仕方が悪い。綾西世帯だけを相手にしてはいけない。	70代	男
6	シャッター商店をなくす。東側店舗を廃しP(駐車場)に・高齢者向けの店を考える(商品)。	70代	男
7	楽しい、買いたいもの、立ち寄りやすい店があること。	60代	女
8	活気がない、品物がすくない。	70代	男
9	総合的な企画運営を。老後を楽しく過ごせる雰囲気が不足。	70代	男
10	商店全体で一つのスーパーに変わる形態を。	70代	男
11	自宅からネットで購入、配達依頼をできるようになってほしい。	60代	男
12	高齢化する綾西の商業拠点として、高齢者の利用しやすい優しいサービスを。	70代	女
13	以前に比べると購入しようと思うものがなく、利用度は減った。	60代	男
14	空き店舗を改装して地元の活動に使えるよう支援してほしい。	60代	男
15	商店が最大の努力をして売り方を持てば共感を呼び、消費者に受け入れられる。	60代	男
16	現状では全てにおいて海老名駅周辺店舗に劣っている。	60代	男
17	相鉄ローゼンにないもので集客できるモノや情報(なごみ等含む)はいかがか。	70代	男
18	綾西バザールの商店がなくなれば高齢者は住めない。店舗はできるだけ利用したい。	80代	女
19	売上を伸ばす努力をしている店が多い。	70代	男
20	活気がないので、地元との連帯感を強めた商業活動を探求してほしい。	60代	女
21	スーパーマーケット風のショッピングセンターなら総ての物品が調達できる。	80代	男
22	空き店舗はなんとかならないか。本屋と銀行がなくなったのが残念で不便。	60代	女
23	高齢者にとって近隣で買い物ができる商店街は是非残してほしい。	70代	男
24	活気がない。銀行の代理店があった時は良かった。	70代	女
25	高齢化で車が使えなくなれば、バザールでの買物が主体となると思うので存続を。	60代	男
26	食料品は高齢者に合わせた商品、量等々考えて欲しい(量より質、新鮮なものを買いたい)。	60代	女
27	現在も老人の為に利用しています。食品全部です。	70代	男
28	宣伝広告板を作製、子供達が遊べる施設を見直す。バザール特有の商品を開発。	80代	男
29	コンサルタントの活用、成功事例の調査。	50代	男
30	駐車場を増やし買い物をしやすいように。公園は桜通りを整備する。	60代	女
31	品数が少ない。購買力を高めるものがない。	60代	男
32	商店に空き店舗が多く活気がない。今はローゼンだけがたより。	70代	女
33	商店さんの心の動きがわからない。住民と店主の意見交換会があるとよい。	70代	女
34	車を運転しないので毎日バザールに出掛ける。車の運転ができる方は他地域に出掛ける。	60代	女
35	多くの人利用しやすい活気のある商店街にしてほしい。	60代	男
36	店主が高齢となり、活気がなくなってきたようだ。他地域の手を借りてのイベントはどうか。	60代	女
37	バザールを充実、気軽に買物できるような配慮が必要。市場的な雰囲気で楽しい買物。	70代	男
38	リーダーが商店街にいないのならば、自治体、自治会等が応援してやるべきと考える。	70代	男
39	住民はバザールの必要性を、商店会はお客を呼び込む品質、価格、品を考えるべき。	70代	男

整理番号	回答要旨	年代	性別
40	高齢者が買物難民にならぬ様に相鉄ローゼンにがんばってもらいたい。住民も商店を大事に。	60代	女
41	空き店が少ない。いっぱいあったほうが景気づくと思う。	70代	男
42	地域住民みんなが楽しく買い物できれば、皆が集まり友人もできる。	60代	男
43	お年寄に優しくすることばかり考えていて、若い世代を集めようとしなのは、結局長く続かない。	40代	女
44	空き店舗前を利用し、月何回か外部のおいしい店を開いてもらい、人を集める工夫を。	60代	女
45	かなり古いので新築したほうがよい。	40代	女
46	子供が一人でも安心して楽しく買い物ができるような、明るく、安く、品質の良いお店を出店する。	30代	女
47	現状を変革しようという気持ち、商店主のチャレンジ精神が欠けている商店が多い。	50代	女
48	高齢者が多くなっているので、色々の商店が多くあればよい。	80代	男
49	閉じている場所があってもったいない。	60代	女
50	桜並木等、緑地を取り込んだ商店街。	50代	女
51	皆応援したい気持ちがたくさんあるが、それに応えるもの（行政も交えて）が必要である。	60代	男
52	バザールは年老いた時、唯一の頼みの場所であり、無くすことは絶対にしないでほしい。	60代	女
53	資本金のない方でも参加出来る、フリーマーケットを定期的開催するのも一方法である。	70代	男
54	バザール公園内に子供の好きな施設があると、親、祖母、祖父もついてくる。	70代	男
55	行きたいと思うお店も集まっていないし魅力がない。老若とも行きたいと思う店が集まればいい。	40代	女
56	店を増やすのではなく、高齢化に伴いやり方を変えていくこと（電気店の例）は大事と思う。	60代	女
57	増々高齢化してきた場合、ローゼンを中心としたバザール商店街が錆れてくと死活問題である。	60代	男
58	一部商店を除いて現状に甘んじているように見える。地域住民も応援の心意気を見せてほしい。	70代	女
59	高齢者が増加する地区なので、増々、身近なバザールでの買物が必要となる。	60代	女
60	空家（店）が多い。30年前ににぎわいがなつかしく思う。	70代	男
61	連帯感と工夫売込、魅力ある商業経営が必要。	未記入	男
62	今の商店街の作りでは発展しないと思う。	60代	女
63	相鉄ローゼンはずっと続けてほしい。バザールも朝市等を企画して盛り上げる必要がある。	50代	女
64	活気がない。実用性のあるお店が何もない。空いているお店をやりたい人に貸せばいい。	40代	女
65	買いたいお店がない。売っている商品数が少ない。商店が少なく売る側にサービス精神がない。	60代	女
66	空き店舗が多すぎる。	70代	女
67	地域商店会としての魅力の発見、又は努力をもっと目に見える形で住民にアピールしてほしい。	60代	男
68	高齢者、夫婦のみ、単身者もいて、きめの細かいサービスのできる店が要求されてきている。	60代	男
69	近い将来、買い物に出られなくなる日がくるかもしれない。現状のまま継続してほしい。	60代	男
70	地域の人とのふれあい、情報交換の場としての役割充実、ここが一番とのふんいき作り。	70代	女
71	子供から大人まで楽しめる場所を作ってほしい。無料で。	70代	女
72	バザール商店会が将来のために1つとなって話し合い、スタイルなど全体的なビジョンを作る。	50代	男
73	半年に1回位開いているお店（ピュア？）は、どのような店か分からず、不愉快であります。	60代	女
74	自治会の会合等又はサークルの活動の場所がバザール内であれば集客が望めるのでは。	60代	男
75	各商店主もあまりあいそが良いとは言えず、買いにくいのが現状です。	60代	女
76	コミュニティビジネス創出のカギは、出生率を上げ、労働者（人間）を大切にすることにある。	70代	男
77	ローゼン以外の他の商店でも、特別の日を決めて高品質で安いものを売っていただきたい。	80代	男
78	もう少し住民の気持ち、必要性を考慮したお店作りであってほしい。	60代	女
79	日常の生活必需品が一ヶ所で全て揃う様な店、そして価格競争、即ち、安く買える店を作ること。	未記入	男

添付資料2 「これからの綾西地区のあり方全般について」自由回答の集約
(第2章 問17.関係)(回答67件、無回答83件)

(以下は、非常に多い量の意見をを含め1行程度に集約したものです。)

整理番号	回答要旨	年代	性別
1	高齢化で自治会運営も難しくなるのでは。個々の負担が大きくならないようにしてほしい(役員の場合)。	50代	女
2	ブルーの防犯灯、さくら並木の活用、児童館のところに信号、これらで商店街が活気付いたらよい。	未記入	女
3	趣味の会が乏しい。料理教室、カラオケ教室、コーヒーショップ、ゴルフ練習場等海老名市を利用。	70代	男
4	住宅地も設備化を進めていかないと、新しい街に負けてスラム化する。駐車場も少ない、図書館もほしい。	70代	男
5	住民は多種多様で、高齢化でガンコにもなるだろう。多種多様な人々が楽しめる催しを考えてほしい。	70代	男
6	自治会活動に参加できない人のことを皆で考えてみては。高齢者が気軽に立ち寄れるバザールを。	60代	女
7	老人が多くなり、若い人が少なくなってきたと感じます。	70代	男
8	現状で充分満足。治安、自然環境、今以上に悪化しないよう、自分自身の活動に留意して生きていく。	70代	男
9	高齢化に伴い、車の運転が不可能な者には不便を感じる。ちょっとした買い物のできるコンビニもほしい。	70代	女
10	次世代が住みやすくなり交代が必要。老人ばかりでは自治会の運営も老化現象。	70代	男
11	川沿いに休憩所スポット設置や綾西地区でネットによる相互交流を。次世代を見据えた創意工夫を。	60代	男
12	高齢化、虚弱化に向けて、小さな援助体制を綾西内で作れないか。有料の外出付き添い、家事援助など。	70代	女
13	アンケートの実施は一つの大きな前進、結果を必ず住民に開示して、意見の報告を願いたい。	70代	女
14	老人が住みやすいように住宅を改造したい。そのために大規模住宅再生地域に指定してほしい。	60代	男
15	今あるお店と空き店舗に本来の姿を取り戻したい。答えは人が集まるというシステム、仕組みだ。	60代	男
16	この先、体が不自由になり、買い物、病院に一人で行けるか不安がある。	未記入	男
17	昔の「向こう三軒両隣」の考え方を。町内の回覧板、災害用自助活動でもこの面識を生かす施策を。	70代	男
18	高齢者が増えるばかりでは先が心配。皆で扶け合っでの生活と、高齢者も自立し役立てる者でいたい。	80代	女
19	転入したくなる地域の創出。高齢化対策に拘りすぎは望ましくない、街作り資金は綾西ファンドの設立を。	70代	男
20	ペットをきっかけに住民が話しやすい場所や機会作りを。世代の異なる住民が交流できる施設がよい。	40代	女
21	若者が住みやすい街作りが必要。例えば、空住宅を安く貸すシステムを構築する。	60代	女
22	やはり足は鉄道と思う。問題点解決型を指向して再々検討願えないか。	80代	男
23	高齢化に伴い、寂しい街になることを大変危惧。老後を安心して生活できる介護施設の設置も考えて。	70代	男
24	元気な街にしましょう。お互いに助け合いましょう。	70代	女
25	高齢化が進むので、共同で利用できる商店街、医療、介護施設の充実を希望している。	60代	男
26	老人用品の取次ぎ店、ホッカホッカ弁当屋、災害用品、通販の申込み、市所への手続き等が必要。	70代	男
27	綾西に図書館分館があればよい。湘南台駅へのバスを希望。川の岸に休めるベンチがあればと思う。	80代	男
28	このアンケートが活用されて綾西地区が再び再活性化されることを願う。	50代	男
29	会員全体が年を取ってくるので、車(病院、趣味)で安く動けると良い。通う足の確保が一番心配。	60代	女
30	バザール商店会の活性化を望む。空き店舗活用に行政のサポートを。桜通りに休憩できるベンチを。	60代	女
31	空き店舗を借りられたら有志で活用したい。昼寝の場所、お茶を飲める場所、子育て支援、買い物支援	70代	女
32	高齢者が多く活気がない。昔の仲間と固まる傾向があり、新住民を受け入れる方策を考える必要がある。	60代	男
33	自治会の役員に新しい人の加入が難しい。色々な会、社協でも公募をしたほうがよいのでは。	60代	女
34	若年家族誘致のための交通機関、教育設備の整備	70代	男
35	退職後、家に閉じこもらない工夫として日帰りバス旅行などが一番よいと思う。	70代	男
36	地域の人が気軽に集まれる場所がほしい。1人暮らしの方の食事が心配。皆で楽しく食事ができる場所を。	60代	女

整理番号	回答要旨	年代	性別
37	高齢者ばかりになり景気がよくない。綾西バザールの発展を希望。気易く喋れる人を増やしてほしい。	70代	男
38	お年寄りには住みやすい。お年寄りが元気なのはいいと思う。	40代	女
39	自治会の高齢化が著しい。自治会の活動も発足当時のまま。市も市民の生活をきちんと見てほしい。	60代	女
40	あと10年後、高齢化も進み自治会、商店街のあり方が問題になる。その時、自治会はどう対応するのか。	70代	男
41	年々増えていく高齢者の身心共の健康を維持していく為の時間、方法等、一丸となって進んでほしい。	60代	女
42	街は行政が守り向上させる意識を持たないと。商店街、住宅地を現在は成り行きに任せているので悲しい。	60代	男
43	隣どうしのつながりがとても浅い。一人暮らしになった時、行きたくなる肩ひじはらない、いこいの場所を。	60代	女
44	高齢化が一番の問題。災害対策、重い物の買い物、車での移動を少なくするなど、設備の充実も必要。	60代	女
45	綾西の住民だけでなく、他地区の若い人に少しでも住んでもらうようにPRをすること。	70代	男
46	30歳代、40歳代の未婚者を綾西地区全体で応援して、結婚する人が多くなるようにしてほしい。	70代	男
47	若い世代が増えるとよい。	60代	女
48	この地域の方は文句を言い、その割りに努力をなさらない方が多いように見える。	60代	女
49	柳通りから海老名まで短時間でいけるバスが欲しい。	60代	女
50	綾西バザール商店会内の再設計（図）の提案。	60代	男
51	バザールに気軽に立ち寄れておしゃべりができ、楽しい居心地のよい場所があればよいのでは。	70代	女
52	自治会組織を簡素化し個人の負担軽減を。古い体制のままで変化しないと次世代から拒否される。	60代	女
53	商店会も必要だが、魅力のあるものとすべき。商店会に住む人、商売をしない人は立ち退くべきである。	未記入	男
54	筋トレ、ストレッチ等できるシルバースポーツ的な所、介護保険では使えない分野を援助するサービス。	50代	女
55	自治会の人達が高齢過ぎる。車の運転ができない人の街づくりを考えてほしい。湘南台までいけるバスを。	40代	女
56	静かな住宅地でいい。買い物は気分転換もかねて、ちょっと足をのばせばいいと思う。	60代	女
57	自治会活動が老人が多いため、役員になるのが大変。	70代	女
58	綾西地区の地元愛が育つ環境作りを積極的に取組み成果が上げられる人材が出てくれると嬉しい。	60代	男
59	綾西バザール内に気軽に立ち寄れることのできる店、店員も少人数でやさしい感じの人が求められる。	60代	男
60	バザール近くに世代を越えてコミュニケーションできる場を。ふれあいカフェでもよい。	70代	女
61	バザール内に皆で楽しめる広場がほしい（カーリング、卓球、その他）。	70代	女
62	新鮮で良質な品物であればもっと利用したいと思っている。	60代	女
63	住宅も空きが目立つので、寂しくなる。商店街だけではなく、住宅も何かの対策が必要では。	60代	女
64	ここ数年の綾西バザール商店会の衰退は、目を覆わんばかりである。	70代	男
65	空き店舗を借り上げて活用してはどうか。老人が買い物した後、一休みできる部屋があればよい。	80代	男
66	綾西はどうしても綾瀬市市民として違和感があります。やはり海老名市になることを望んでいます。	未記入	男
67	健康、金銭、保険等、ちょっとした相談をする場所があればいい。軽喫茶店のようなことを兼ねてもよい。	70代	女

綾西地区にお住まいの皆様へ

コミュニティビジネス創出のためのアンケート調査

ご協力をお願い

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

本市行政につきましては、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

綾瀬市では、綾西バザール商店会および周辺の綾西地区をモデル地区として、「商店街におけるコミュニティビジネス※の創出」を支援するための調査・研究を実施いたします。

その一環として、「地域」における課題や問題、また、「商店会」への期待や要望などの現状をアンケート調査により把握したいと考えています。

このアンケートは、綾西地区（綾西バザール商店会周辺）にお住まいの約 300 世帯の皆様にご協力をお願いしています。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解の上、何卒ご協力くださるようお願いいたします。

平成 23 年 6 月

綾瀬市長 笠間 城治郎

※「コミュニティビジネス」とは、地域資源を活かしながら地域課題の解決を「ビジネス」の手法で取り組むもの。地域の人材やノウハウ、施設、資金を活用することにより、地域における新たな創業や雇用の創出、働きがい、生きがいを生み出し、地域コミュニティの活性化に寄与すると期待されています。

【商店街におけるコミュニティビジネスの例】

商店街の空き店舗等を活用した、「住民が集える憩いのカフェ」、「買い物支援としての宅配サービス」など。

【調査の方法について】

- ・設問には、差し支えのない範囲でお答えください。
- ・「綾西バザール商店会」とは、綾西 4 丁目周辺にある商店を指します。
- ・お忙しいところ大変恐縮ですが、アンケートは返信用の封筒にお入れいただき、平成 23 年 7 月 10 日（日）までに投函をお願いいたします。
- ・ご回答いただいた調査票はその内容を整理・集計し、地域の方を対象に本年 8 月下旬頃、報告のための意見交換会を開催させていただく予定です。
- ・調査票は無記名であり、回答者が特定されることはありません。

【お問合せ先】

○アンケート全般についての問い合わせ先

綾瀬市役所 都市経済部商工振興課商工労政担当 担当（野谷）

〒252-1192 綾瀬市早川 550 番地

電話 0467-70-5661

FAX 0467-70-5703

○アンケートの記入方法や回収等についての問い合わせ先（業務委託先）

特定非営利活動法人 NPO あつぎみらい 21 内

「平成23年度綾瀬市コミュニティビジネス調査・研究業務」担当（大嶋）

電話 090-8089-5297

コミュニティビジネス創出のためのアンケート調査 調査票

【ご記入方法について】

- ・調査票は世帯単位で配布しております。アンケートへのご回答はご家族（世帯）全体のことをお考えに入れて回答してください。
- ・選択肢のある質問は、該当する番号に○をつけてください。
- ・記入欄を設けている質問については、記入欄に直接回答をご記入ください。

アンケートにお答えいただく方ご自身およびご家族(世帯)についておたずねします。

問1 あなたの性別と年齢を教えてください。

【性別】 ア) 男性 イ) 女性 【年齢】 () 才

問2 あなたの家族(世帯)構成について教えてください。

◆ご家族(世帯)の人数

() 人 : ご回答いただく方も含めた人数をご記入ください。

◆ご家族(世帯)の構成(あてはまるものに1つに○を付けてください)

ア) 単身 イ) 夫婦 ウ) 2人以上で同居(夫婦のみを除く) エ) その他

お住まいの綾西地区についておたずねします。

問3 あなたが綾西地区に持っている印象を教えてください。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| ア) 同世代が多く相互理解が容易 | イ) 表に出ない問題がいろいろある |
| ウ) 地域のコミュニティ意識は強い | エ) 住民同士の交流機会が少ない |
| オ) 地域の課題を住民が自由に話し合える | カ) 個人の知識経験を活用する機会は少ない |
| キ) 老後を静かに過ごすには適している | ク) 地域全体の活気が少なくなった |
| ケ) 地域活動に熱意のある人が少ない | コ) 住む人たちの高齢化が目立つ |
| サ) 街路樹や住宅の花壇が楽しめる | シ) スポーツ施設が近くにない |
| ス) 快適・魅力的なまち | セ) 集まって居心地よく過ごせる場所がない |
| ソ) 治安のよい生活環境である | タ) 商業施設が少ない |
| チ) スーパーがあるので便利 | |
| ツ) その他 () | |

問9 問7で、「ア）不便や課題がある」を選択した方におたずねします。

綾西地区全体にとって今、最も優先度が高いと考えるもの1つに○を付けてください。

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| ア) 最寄り駅へ行くのに時間がかかる | イ) おいしいものを食べられる店がない |
| ウ) 数人で集まってお茶をする場所がない | |
| エ) 生活上の問題を気軽に相談できる専門家がない | |
| オ) 地域にゴミが放置された場所がある | カ) 大災害の時、地域での避難所が不安 |
| キ) 子育ての相談相手がいない | |
| ク) その他 () | |

問10 問7で、「イ）不便や課題はあるが気にならない」を選択した方に理由をおたずねします。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ア) 当面自分の生活には影響がない | イ) 綾西地区以外で解決する道がある |
| ウ) あきらめている | エ) いずれ解決すると思っている |
| オ) その他 () | |

問11 コミュニティビジネスの取り組みとして、もし、次のようなお店やサービスがあったら利用しますか。「利用しないと思う」を選択した方は、その理由を教えてください。

①ご自宅から徒歩20分以内で気軽に集まり、お茶ができる憩いのカフェ

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

- | | |
|----------------|------------------|
| ア) 利用すると思う | イ) 利用しないと思う →理由へ |
| ウ) 内容を見てから判断する | エ) その他 () |

理由 「イ）利用しないと思う」を選択した方は、理由を教えてください。(1つに○をつけてください)

- | | |
|-----------------|------------------|
| ア) すでに気に入った店がある | イ) 品質、サービスに不安がある |
| ウ) 価格が安いとも限らない | エ) 必要としていない |
| オ) その他 () | |

②軽作業、庭掃除、棚つりなど簡単な大工仕事を安い料金で頼めるサービス

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

- | | |
|----------------|------------------|
| ア) 利用すると思う | イ) 利用しないと思う →理由へ |
| ウ) 内容を見てから判断する | エ) その他 () |

理由 「イ）利用しないと思う」を選択した方は、理由を教えてください。(1つに○をつけてください)

- | | |
|-------------------|------------------|
| ア) 依頼通りにやってくれるか不安 | イ) 約束どおり来てくれるか不安 |
| ウ) 作業賃のやりとりが不安 | エ) 必要としていない |
| オ) その他 () | |

③神奈川県内の特産品、地元生産品を使って、味良く健康にもよい食事が摂れるレストラン
(あてはまるもの1つに○をつけてください)

- | | |
|----------------|------------------|
| ア) 利用すると思う | イ) 利用しないと思う →理由へ |
| ウ) 内容を見てから判断する | エ) その他 () |

理由「イ) 利用しないと思う」を選択した方は、理由を教えてください。(1つに○をつけてください)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ア) 専門的な運営とは限らない | イ) 材料の良否を判断できない |
| ウ) 価格が安いとも限らない | エ) その他 () |

④買い物に不自由な高齢者対策としての買い物支援、宅配(有料)サービス
(あてはまるもの1つに○をつけてください)

- | | |
|--------------------|------------------|
| ア) 利用すると思う → 宅配希望へ | イ) 利用しないと思う →理由へ |
| ウ) 内容を見てから判断する | エ) その他 () |

宅配希望「ア) 利用すると思う」を選択した方は、具体的に宅配を希望するものがあればお書きください。(例)米、酒 など

--

理由「イ) 利用しないと思う」を選択した方は、理由を教えてください。(1つに○をつけてください)

- | | |
|-------------------|--------------|
| ア) それほど買い物頻度は多くない | イ) 手続きが煩わしそう |
| ウ) 配達時刻の自由がなさそう | エ) その他 () |

⑤趣味、特技の成果を持ち寄って委託販売するボックスショップ(棚貸し)
(あてはまるもの1つに○をつけてください)

- | | |
|----------------|-----------------|
| ア) 利用(購入)すると思う | イ) 利用(購入)しないと思う |
| ウ) 内容を見てから判断する | エ) その他 () |

理由「イ) 利用(購入)しないと思う」を選択した方は、理由を教えてください。
(あてはまるもの1つに○をつけてください)

- | | |
|------------------------------|-------------|
| ア) 同じ趣味を持つ者同士が集える場所でなければ使わない | |
| イ) 商品が常に新しくなければ使わない | ウ) 品質に不安がある |
| エ) その他 () | |

⑥上記①から⑤以外で、コミュニティビジネスにとらわれず、「綾西地区にあればいい」と思うお店やサービスがあればご自由にお書きください。

問12 これから長い期間にわたって綾西地区で生きがいを持ち、充実した生活を送るために、何が重要とお考えになりますか。あてはまるものを最大3つまで○をつけてください。その中で最も優先度の高いもの1つに◎を付けてください。

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| ア) 商店街へのお店誘致 | イ) 個人同士の助け合い・相互支援サービス充実 |
| ウ) 個人の知識・技能が活用できる場所 | エ) 美術、音楽など芸術の研鑽と発表の場所 |
| オ) 母親が買い物に専念できる一時託児所 | カ) 高齢者がくつろげる場所 |
| キ) 災害時の地域防災システム作り | ク) 地域の相互支援による高齢者介護システム |
| ケ) 地域に住む人の核となる拠点施設 | コ) その他 () |

綾西バザール商店会についておたずねします。

問13 綾西バザール商店会のにぎわい増進のために、今最も不足していると思うものに○を1つ、今後長期的にじっくり取り組んでいくべきと思うものに◎を1つ付けてください。

- | | |
|-------------------|------------------------|
| ア) 華やかな雰囲気洋菓子店 | イ) 斬新な生活雑貨のお店 |
| ウ) 憩いのカフェ | エ) 休憩所などの高齢者に優しい設備 |
| オ) フリーマーケット等地域の催し | カ) 朝市、旬日(10日、20日)市等の開催 |
| キ) 健康食事調理教室・試食会開催 | ク) 地域産の新商品開発 |
| ケ) 現状を変革しようという気持ち | コ) 綾西に住む人の商店街支援の熱意 |
| サ) 商店街全体の美化 | シ) 店主のチャレンジ精神 |
| ス) 綾西に住む人たちの地元愛 | セ) 新規店舗を受け入れて切磋琢磨する精神 |
| ソ) 商店街の将来へのビジョン | タ) 商店街の将来図を描ける人材作り |
| チ) その他 () | |

問14 あなたは綾西バザール商店会のにぎわい復活の支援について協力できますか。

ア) できると思う

イ) できないと思う →理由へ

理由「イ) できないと思う」を選択した方は、できないと思われる最も大きな理由はどのようなものですか。(あてはまるもの1つに○をつけてください)

ア) 現状で満足している

イ) 商店会への関心があまりない

ウ) あえて冒険をしたくない

エ) 続けられる自信がない

オ) 活動できる人に任せたい

カ) 無償では取り組めない

キ) 興味がない

ク) 忙しい

ケ) その他 ()

問15 綾西バザール商店会のあり方全般についてご自由にお書き下さい。

仲間作り、生きがい作りについておたずねします。

問16 あなたは今、仲間作り、生きがい作りの必要性を感じていますか。(1つに○をつけてください)

ア) 必要性を感じている →分野へ

イ) 必要性を感じていない →理由へ

ウ) 分からない

エ) その他 ()

分野「ア) 必要性を感じている」を選択した方、あなたにはどのような分野での仲間作りが考えられますか。(あてはまるもの1つに○をつけてください)

ア) 趣味・特技

イ) 遊び・旅行

ウ) 手近にできる仕事

エ) 芸術

オ) ボランティア活動

カ) 育児

キ) まちづくり

ク) 健康

ケ) その他 ()

理由 「イ) 必要性を感じていない」を選択した方はその理由を教えてください。

(あてはまるものを最大**3つまで**○をつけてください)

- ア) すでに地域団体に参加して活動を行っている
- イ) 生活維持で手いっぱいのため生きがい作りまで余裕がない
- ウ) 生きがいは自分一人の趣味で得ている
- エ) 自分の家庭維持が生きがいになっている
- オ) 人間関係が不得手
- カ) その他 ()

綾西地区全般についておたずねします。

問17 これからの綾西地区のあり方全般について、ご希望があればご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

このアンケート調査票は、返信用封筒に入れて、切手をはらずに
平成23年7月10日(日曜日)までに、投函をお願いいたします。

綾瀬市コミュニティビジネス調査・研究業務報告書

発行日 平成23年10月

発行 綾瀬市

〒252-1192 神奈川県綾瀬市早川 550 番地

電話0467-77-1111 (代表)

綾瀬市 都市経済部 商工振興課

調査受託 特定非営利活動法人 NPOあつぎみらい21
